



岩村 collection 2

結婚相談室

実践女子学園に所縁のある方のご結婚に向かって、出会いの場を広げて頂くお手伝いをしています。

【相談日】毎月第 2・第 4 土曜日 10:30 ～ 16:00

★ 10 月第 4 土曜日のみ第 3 土曜日に変更

【休 室】8 月第 2 土曜日、12 月第 4 土曜日

【会 場】実践桜会会館(渋谷校舎隣接)

【入会資格】学園卒業生および卒業生のご紹介の心身共に健康な女性・男性

【入会金】2 万円と書類代 1 千円

【入会時にご用意頂く物】

入会されるご本人自筆の履歴書

写真 3 枚～ 5 枚(本人のみ、スナップ可)

★詳細は相談日にお問い合わせください。

【連絡先】TEL:03-3407-7459 (実践桜会会館)

実践桜会囲碁教室

近年、教育の場に囲碁が問題になっているのはなぜでしょ

うか？ 一般に変化が無限で奥深い面白さがあるのですが、それに加え、囲碁の良さは暗記力とは違う脳の鍛え方ができることです。つまり、正解が分からない中で最善を考えられる能力が鍛えられるということが、その 1 つだそうです。皆様も挑戦してみませんか。(Y.K)

【教室の開室予定日】

原則として、第 2・第 4 月曜日(13:00 ～ 16:00)

2016 年 4/11 4/25 5/9 5/23 6/6

6/27 7/11 7/25

8/8 8/22 9/12 9/26

自由対局 6/20 10:30 ～ 16:00

【会費】一回 1,000 円(自由対局 500 円)

【講師】柳川正興(アマ 6 段)

【連絡先】TEL:03-3407-7459 (実践桜会会館)



教室の風景

実践桜会会館・貸室のご案内

科会の委員会、サークル活動、クラス会等に多数ご利用いただいております。貸室予約、料金は実践桜会会館にお問い合わせください。

【編集後記】

●今号で「那与竹」「なよたけ情報版」と 8 冊数え、4 年間の広報活動を終えます。入学時「生徒手帳」には「堅実にして質素、しかも品格のある女性の育成をもって建学の精神とする」と書かれていたと記憶しています。このことばは社会にでたあとも傍らにありました。下田精神は、各地にいる先輩方によって、教育に、事業に、社会活動のなかにしっかりと根づいていました。歴史ある実のある学園の卒業生として、改めて誇りがもてました。実践桜会の絆を大切にしたいものです。(建部静代)
●多くの年間行事の写真を撮りました。「祝・成人の会」、子連れ歓迎の同窓会、百寿を迎えられた方、昨年の岩村の旅でも同窓生の年齢層の厚さを実感。「那与竹」を通して絆が深まる事を願います。また、ひとつ世界が開けました。(松尾千秋)
●各分野で活躍する卒業生の取材を通し、その陰に必ず友人達の存在があることを知りました。その意味で実践女子学園は「夢を育むゆりかご」と言えます。仲間達に支えられて、私も新たな一歩を踏み出そうと思っています。(青山マキ子)
●「那与竹」、「なよたけ情報版」に携わって 2 年が経ちました。支部のネットワークの活性化、50 年ぶりの科会発足と、喜ばしいニュースが続いております。「那与竹」を開いて、懐かしいお顔を見つけた方もいるのではないのでしょうか？楽しんでいただければ幸いです。(山口みなみ)

【寄附者ご芳名】(敬称略)

佐渡三枝子、篠田俊子、三日月の会(S59 年卒 高三 7 組)、福村和子、佐藤順子、鹿喰登志子、故 市川美奈子、S26 年専門生活卒業生、実践桜会愛知支部、浦上淳子、西向みち子 *ご寄附は随時受け付けております。

【お願い】転居・改姓等をされた方および会費のコンビニ入金をされる方で住所変更もある場合は、会員番号、卒年学科をご確認の上、実践桜会事務局(Tel:03-3407-7459、FAX:03-3499-0835)までご連絡ください。

編集・発行：一般社団法人教育文化振興実践桜会

編集・発行人：浦上淳子

〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-40

TEL:03-3407-7459 FAX:03-3499-0835

URL: http://www.j-sakura.org

広報部メールアドレス:jissen-sakura-koho@dance.ocn.ne.jp

振込口座:東京 00190-0-23848

印刷:凸版印刷

平成28年度 定時総会のご案内

平成28年度の定時総会を下記の要領で開催致します。代議員ならびに一般正会員の皆様のご出席を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

日時：平成28年5月15日(日)

午前11時開会(10時30分開場)

場所：セルリアンタワー東急ホテル

B2F ボールルーム

東京都渋谷区桜丘町26-1

(渋谷駅徒歩5分)

TEL: 03-3476-3000

- 議題：1.平成27年度事業報告の件
2.平成27年度決算書承認の件
3.公益目的支出計画実施報告書承認の件
4.監査報告
5.役員改選の件
6.平成28年度事業計画(案)及び予算(案)の件
7.定款変更の件

*総会終了後、懇親会を開催致します。

会費：会員 10,000円

新入会員 9,000円

(会費は当日会場でも受け付けます。

ただし、会費納入済の方、未納の方に

かわらず、5月12日以降キャンセル

の場合は会費を頂戴いたします。ご

理解のほど何卒宜しくお願い申し上げ

ます。)

*代議員は、後日お送りする「出欠連絡書」にご記入の上、4月30日(土)までに郵送にてお知らせ下さい。

一般正会員で総会及び懇親会にご出席の方は、実践桜会事務局へ4月30日(土)までにお申し込みください。尚、一般正会員は総会での議決権はありません。

〒150-0011 東京都渋谷区東1-1-40

TEL: 03-3407-7459 FAX: 03-3499-0835

E-mail: jissen-sakurakai-jim@forest.ocn.ne.jp



実践桜会全国交流会 岩村の旅

実践桜会全国交流会 岩村の旅

■ 11月14日（土）

実践桜会は同窓会として100年以上の伝統がありますが、このように大規模な催しは初めてのことです。しかも総勢100名で下田先生の故郷を訪ねることができるとは、なんと素晴らしいことでしょうか。

午後3時頃に恵那駅に集合、送迎バスで恵那峡グランドホテルへ。続々と到着する会員を、浦上実践桜会理事長はじめ理事たちが出迎えます。「ようこそお越しくださいました」と声をかけると、「お久しぶり」、「この日を楽しみにしていました」と、みなさんワクワクしたご様子。また、卒業後50年間会うことのなかったクラスメートと再会した方もあり、思いがけず笑

顔がこぼれます。

学園からは井原徹理事長、湯浅茂雄国文学科教授・下田歌子研究所長がご参加くださいました。交流会が、より意義深いものに。17時より湯浅教授による講演が行われ、下田先生の偉業をあらためて実感しました。その後、集合写真を撮影。どなたのお顔も、実践で学んだという自信に満ち溢れています。

■懇親会（18：30～21：00）

岩村城女太鼓の皆さんによる歓迎の演奏で、懇親会がスタート。勇壮で華麗なバチさばきと、体を突き上げるような和太鼓の響きに圧倒されました。下田先生の故郷岩村は、女城主の里として非常に

有名です。幼い養嗣子のかわりに岩村城主となったおつやの方は、甥である織田信長によって非業の最後を遂げますが、おつやの方への尊敬の気持ちが、演奏にこめられているように思われました。

井原学園理事長より、交流会開催のご挨拶を賜りました。さらに、女子教育のその先、社会をけん引することのできる人間をいかに育成するのか、という学園の展望にも言及。学園と同窓会とが手を携えて、伝統を守りつつ新しい挑戦を続けることの大切さを訴えられ、熱い思いのこもった決意表明に、みなさん深く頷きながら傾聴していました。

乾杯は、岩村酒造の杜氏様がこの日のために特別にご用意くださった、樽出しの新酒で行いました。市場に出る前の、正真正銘の新酒です。乾杯のご発声は湯浅教授にお願いしました。一堂に会した喜びと、幻の新酒とを味わうことができ、一同感無量。また、井原学園理事長は大杯に注がれた新酒を飲み干して、祝意を表してくださいました。学園に対する期待を込めて、桜会からもエールを送ります。

土地の食材を生かした料理が供され、各テーブルで歓談している間に、浦上理事長が参加者の氏名を一人一人読み上げます。これは、学生時代の「出席確認」を再現するという趣向。学生時代さながらに手を挙げ、大きな声で返事をしていました。時折あがる大歓声は、クラスの人気者の存在を教えてくださいました。どなたもにこやかに微笑まれているのが、とても印象的でした。

交流会に尽力くださった歌子会の方々も、パーティー会場に駆けつけてください



下田歌子先生墓地



参加者全員で



勉学所にある下田先生像



「綾錦～」の碑 生誕地にて



岩村の街並み



歴史ある用水路



思わず触りたくなるなまこ壁



高札場に往時をしのぶ

ました。岩村酒造の渡会直子歌子会会長、丸山照子様、足立政子様と共に宴席を囲みました。まさに下田先生にいただいたご縁。これからも大切に育んでいきたいものです。

続いて、太田紀美子さん（昭和38年短大生活科卒）にハワイアンフラとウクレレ、ハワイアンソングをご披露いただきました。太田さんはNPO法人日本アロハ協会理事長で、国際的に活躍されています。1曲目の「モーニング デュウ」がかかると、柔らかく華やかなフラに、すっかり魅了されてしまいました。また、参加者一体型のプログラムでは、井原学園理事長、湯浅教授、浦上桜会理事長をはじめとする何名かの参加者が、太田さんのレクチャーを受けました。なかには陽気なリズムに身をゆだね、はじめてとは思えないほどお上手な方も。積極的に楽しむ姿勢に会場のボルテージも上昇、自然に手拍子が起こります。学園校歌のアレンジでは、実践の色である紫色のドレスに身を包んだ太田さんが再登場。フラは一つ一つの動作に意味があり、それを校歌に当てはめて表現してくださいました。交流会にふさわしく、特別なステージとなりました。

さて、懇親会の最後の楽しみは抽選会です。豪華景品が当たるかもしれないとあって大盛況。いずれの品物も実践桜会理事たちの渾身のチョイスで、喜んでいただけるものばかりです。さらに今回は岩村酒造様からは地酒を、松浦軒様からはカステラを提供いただき、岩村酒造賞・松浦軒賞が設けられました。一人でも多くの方に喜んでもらいたいという思いで実

現した、特別な賞です。浦上桜会理事長と井原学園理事長が交互にくじを引き、番号を読み上げると、各テーブルに悲鳴にも似た歓声があがります。とくに、「どうせ当たらないわ」と半ばあきらめている方が歓喜している様子を見ると、こちら思わず頬が緩みます。急いで届けたい一心で、当選品受け渡し係が会場を縦横に走って駆けつけ、「おめでとうございます!」と声をかけて品物を渡します。当選者はもちろんのこと、そうでない方も、ハラハラ、ドキドキの瞬間を目一杯楽しんだようです。くじですので、なかには残念ながら当選しなかった方も。お土産として全員に、岩村山荘特製のしそ味噌 or あじめ味噌を用意しました。

懇親会の締めは校歌斉唱です。中島千丘理事の指揮に合わせて、声高らかに歌います。翌日への期待と、懇親会が終わってしまうことへのほんの少しの名残惜しさが入り混じる、独特の空気を感じました。お開きになると、まだまだ興奮冷めやらぬといった様子で、再会した旧友と語ったり記念写真をとったりと、すっかり女学生に戻ってうちけていました。同窓生というのは、年代を越えた親しみと温かさがあり、本当にいいものですね。

■ 15日（日）

恵那峡グランドホテルは温泉も素晴らしく、早朝の露天風呂はとくにおすすめ。湯煙の先には紅葉に彩られた大井ダム湖景と、恵那のシンボルである恵那峡大橋が…。ややタイトなスケジュールではありましたが、多くの方にご堪能いただけたものと思います。

朝食後、3台のバスに分かれて乗車し、ホテルを出発。いよいよ岩村へと向かいます。乗車の際、名簿に旧友の氏名を探す方もちらほら。名字が変わっているため、なかなか確信をもてない様子でした。しかし対面してみれば面影は当時のまま。思い切って声をかけてよったと、喜びの音がバスのなかに響きます。また、ひとりで参加された方もいつの間にか友人ができていたり、新たな出会いもあったようです。

■下田先生に会いに行く （9：10～9：50）

まず向かったのは下田先生の墓所。墓参は交流会最大の目的でもあります。一度は訪ねてみたいけれど、諸般の事情でなかなか難しいという声や、できるだけ多くの同窓生が集まる機会を設けてほしいといった要望が、以前から本部に寄せられていました。同窓生が一時に集まってお参りすることができたら、実践に対する思いをより強くしてもらえるのではと、交流会の企画は動き出したのです。

バスから降りると、歌子会の方たちの出迎えを受けました。墓地が高台にあり、安全のために補助を買って出てくださいました。この日はあいにくの空模様で、石畳が雨に濡れて滑りやすくなっていたのですが、おかげで安心して墓参することができました。

傾斜はかなりのもので、歩きなれていない方には少々きつい道のり。急がずゆっくり登坂するように、とのアドバイスに従います。ようやく先生の墓前にたどり着くと感慨もひとしお。一生の思い出にと記

湯浅先生の講演会「下田歌子に学ぶ」 （14日17：00～18：00）

父親のあとを追って上京したのは下田先生16歳のとき。「綾錦 着て帰らずは三国山 またふたびは 越じとぞ思ふ」と詠んだとおり、幾多の困難や逆風にあいながらも、教育者として歩み続けた。当時の小説には、先生をモデルにしたと思われる人物が登場している。とくに森鷗外の「青年」では女傑として描かれており、いかに民衆の尊敬を集めていたのかを窺い知ることができる。

明治26年9月から2年間におよぶ欧米視察を通して、上流子女のみならずとも学ぶべきであると確信。わけでも一般女性へ教育を授けることは、日本

の将来にとって重要だと見抜いていた。それは「まことに揺籃を揺がすの手は、以て能く天下を動かすことを得べし」という言葉に象徴されている（「帝国婦人協会設立の趣旨」明治31年10月起草）。

教育は己のためであり、かつ次世代のためでもある。実践女子学園の歩みは、下田先生の決意と共に始まったといえる。





念撮影したり、裏側に回って墓碑を読んだり、なかなか列が前に進みません。それぞれが先生に対して深い思いを抱いており、さすがは実践生だと感銘を受けました。そのとき、雲の切れ間から青空が覗き、陽がまっすぐに差し込む瞬間を目の当たりにしました。あたかも先生が歓迎してくださったかとも思える、神秘的な光景でした。下見の際は「もしかしたら全員が墓参することは難しいかもしれない」と、案じていましたが、参加者同士励ましあい、手助けしあって、下田先生の墓前に全員香華を手向けることができました。

帰り際、歌子会の皆さんが郷土菓子「からすみ」を手渡してくださいました。早朝から拵えて下さったとのことで、参加者一同おもてなしの心に大感激。バスの中で素朴で温かな味を堪能しました。歌子会と岐阜支部の方々には、墓参時の補助や墓地の清掃、供花をご準備いただき、大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

■街並み散策（10：00～11：45）

下田先生の墓地を後にし、岩村の街並み散策へ。岩村は城下町として往時の景観を残していることで知られています。商家や問屋の家屋が恵那市の指定文化財となっており、有料または無料で見学できるのですが、「岩村は初めてで、どこをみてよいかかわからない」という声も。そのようなご要望にお応えして、湯浅教授が特別に案内をしてくださいました！ メインストリートを歩くだけでなく、公開されている家屋・敷地内をくまなく見学。なか

でも問屋として栄えた木村邸には、下田先生や佐藤一斎の書額をはじめ、貴重な品が数多く展示しており、見ごたえ十分。木村邸は藩の財政を支えたことで信頼を得、藩主自らしばしば出向いたそうです。そのため通常の玄関の外に、藩主出入りの玄関を設けています。もちろん、藩主がじきじきに訪問するなど、普通では考えられないこと。藩がいかに木村邸を頼っていたかを伝える逸話といえるでしょう。

また、見学したどの屋敷にも共通していたのは、庭に水路が引かれていること。水がさらさらと流れるさまは非常に風情がありますが、もちろん美観が目的だったわけではありません。つつい景色としてのみ眺めてしまうのが旅行者の常ですが、生活に不可欠な機能を果たしていることに気がつきます。水路は「天正疎水」と呼ばれ、もとは防火の目的と生活用水として使用されたそう。一度火の手があたり、あたり一帯にまで燃え広がってしまうことから、人々はなによりも火事を恐れていました。火事を起こさないことは無論ですが、いかに最小限に食い止めるかが重要です。白くてぷっくりとした目地に、思わず手を触れなくなるなまこ壁も、防火と防水がそもそもの目的です。いずれにしても、暮らしを守るための工夫から生じた美といえます。

再び通りに戻って散策を続けると、高札場を発見しました。高札自体はさすがにレプリカですが、当時の雰囲気味わうには十分。お触れが出た際、町の人々はどのようなやりとりを交わしていたのでしょうか。時代を超えて、同じ場所に立つ不思議を感じます。

高札場から少し歩くと、当時の道標に遭遇。景観にすっかりとけこんでいるので、気づかなかった方もいたかもしれませんが、これも重要な史跡のひとつ。交通手段の発達した現代において、道標の意義は忘れられがちですが、交通の要所に必ず設置されていました。道標は2基あり、細い方の道標には「是より右ハミたけ道」「是より左ハなごや道」と彫られていることがわかります。このように、史跡が比較的近距离に集まっているところも岩村の魅力です。決して広くはありませんが、ひとつところに同時代的要素が凝縮されているため、かつての往来の様子をイメージしやすい土地柄なのです。

旅の楽しみといえば、お土産は外せません。松浦軒本店や岩村酒造で、各自たくさん買い求めていました。昨今は取り寄せも可能ですが、購買と会話とを同時に味わうことができるのは、やはり旅ならではです。

■岩村山荘（11：50～12：30）

岩村山荘といえば戦国料理が名物ですが、今回は城下町弁当をいただきました。100名分ずらっと並んだ城型の器が圧巻。童心に帰ったかのように、目を輝かせながら一段一段開けていきます。面白かったのは、巻きずしに似せた寒天料理。ヘルシーで女性にとっては嬉しいメニューです。もちろん男性にもおすすめ。新鮮な川魚をメインに、バラエティーに富んだ内容で大変美味でした。

■下田歌子先生生誕地・勉学所（12：30～13：00）

食後の運動を兼ねて、徒歩で生誕地・勉学所へと見学に向かいます。いずれも岩村城址の途中に位置しています。ゆるい勾配が続き、ごく限られた時間でめぐるには少々ためらわれる距離ですが、里の景色を楽しみながら、それぞれのペースで目的の場所まで向かいます。

湯浅教授による碑の説明は好評で、みなさん熱心に耳を傾け、積極的に質問をしていました。とくに下田先生の和歌「綾錦～」を刻んだ顕彰碑の説明は大好評。岩村を訪れたことはなくとも、パンフレットなどに碑の写真が掲載されているので、知っている方も多いのではないのでしょうか。この碑は下田先生が亡くなる前年に建立されました。驚くことに実践の校庭で刻み、鉄道で運んだのだそう。こんなに巨大（高さ約3メートル）なものを、一同目を丸くするばかりです。下田先生ご自身は碑を望みませんでしたが、ほかに気持ちを伝える術がない、という周囲の人々の気持ちも理解できるように思います。先生が受け取られたのは真心なのでしょう。当時の建立の様子を写真で見ると、非常に多くの人が詰め掛けていることがわかります。碑のいわれを知ると、先生の偉大さをより強く感じます。

勉学所は平成15年に復元されたものですが、簡素なつくりであったことを今に伝えています。父親の書斎を勉学所としたのだそう。江戸時代、たとえ素質があろうとも、女子が藩校で学ぶことは許されませんでした。

た。しかし藩校では学べなくとも、学ぶことが許される境遇であったということが、かえって下田先生に固い決意を持たせたのではないのでしょうか。ありとあらゆる人の思いを背負っているからこそ、度重なる風雪にも耐えることができたのでしょう。この小さな勉学所が、先生の出発点であり実践の原型といえるのかもしれません。

■小原の四季桜（14：00～14：40）

名残惜しくも岩村を後にし、向かったのは豊田市の小原地区。小原は和紙が非常に有名で、室町時代から「紙漉き」が行われていたのだそうです。さらにもう一つの名物が四季桜。11月のこの時期ならば、四季桜と紅葉を同時に楽しめるとのこと。種類によっては秋冬に咲く桜もありますが、「桜と紅葉の競演」だなんて信じられません。いうなれば、着物の柄でしか楽しめないような景色ということになります。どうか桜と紅葉の両方が見頃でありますように、と祈るばかり。

バスに揺られること約1時間で小原に。車窓から桜が点在している様子を確認し、まずは一安心。会場に向けてひた走るバスのなかには、桜よりも思い出話で大盛り上がり。はたして参加者全員の心を揺さぶる絶景に出会うことはできるのか。と、不安が胸をよぎります。ふと、里山の斜面がバスの左右に迫り、山肌には一面に淡い色彩が！ その瞬間、思い出話に興ずる声は感嘆へと変わります。

地区内総数10,000本もの桜を際立たせるがごとくに、赤や黄に色づいた木々が絶妙に配置され、まるでモザイク画のよう。「こんな景色は今までに見たことが

なかった」という喜びの声を聞くことができ、安心しました。まさしく交流会の締めくくりにふさわしい、絢爛たる景色を見ることができました。

■名古屋駅着（16：00）

小原を出て約20分、里山から近代的なビル群へと景色が移り変わり、旅もいよいよフィナーレへ。名古屋駅に着くまでの間、少ししんみりした空気がバスのなかを漂います。「実践桜会創設以来、初めての大イベントでしたが、こんなに多くの同窓生に集まっていただけとは感無量です」と浦上桜会理事長が挨拶し、車内は拍手に包まれました。

今回の計画意図は、全国から集まるのであるからもう1泊他の地域を訪ねられて、旅を楽しんでいただくというものでした。お仲間同士各地を周遊したという方々や、懇親会だけでも出席したいという近県の方もいらっしゃいました。おひとりおひとりが実践でのつながりを、今でも大切に育んでいらっしゃることを目の当たりにし、非常に感激いたしました。

とうとう名古屋駅に到着。「元気に参集したら、笑顔で帰宅してほしい」と、理事全員で参加者を見送ります。みなさん「楽しかった、どうもありがとう」と口々に笑顔で帰って行かれました。あつという間の2日間でしたが、中身の濃い旅となったことと思います。各地にいる同窓生が一堂に会するという大イベントを実行でき、桜会理事一同大変うれしく思います。この度は交流会へのご参加、どうもありがとうございました。

（記：山口みなみ）

大学の原点

実践女子学園 理事長
井原 徹



大学の起源は、11世紀イタリアのボローニャという都市にできた「ボローニャ大学」だと言われています。

ボローニャ大学は、「学生のギルド（組合）」でした。学びたいという人々が集まり、出資しギルドを形成し、教える能力がある学者・教師を雇ったのです。当時ボローニャ大学は「法律」の学校として有名でした。これが原型となって12世紀にはフランス・パリに神学校としてのパリ大学が生まれました。パリ大学はボローニャ大学とは逆の「教師のギルド」でした。教える能力がある人々（神父等）が集まり、教えてもらいたい人を募集したのです。現在の大学は、このパリ大学の方式を源にしています。

繰り返しますが、「学びたい者が集まったのが大学」なのです。ろくに学ぶ意欲がない者が、親に背中を押されて行く場所ではなかったということです。なぜ今更こんなことを言っているかというと、我が国に蔓延する「学びへの渴望の不足」を、実践女子学園でも見るからです。決して安くはない学費を、親は子供の将来への投資と考え、自分たちの食べるもの、着るものを減らしているのに、それに報いようとしないう学生たちが我が国に多くなっていることを、私は心配しています。「大学とは、学ぶところ」という至極当たり前のことを、当たり前に行っていない現状を、この学園の現状にしてはならないと思っています。

では、精神論で、あるいは強圧で学生たちを勉学に駆り立てれば良いのでしょうか。そんなことはできることはありません。学生が何をしたいのか、何を学びたいのかをきちんと大学側、先生たちが把握し、一人ひとりに合う、いわば、オーダーメイドの教育を可能な限り実施することが理想です。「できる子」「できない子」「普通の子」などとグルーピングして、集団管理するのは、前世のやり方だと思います。学生を個人として尊重した上で、はっぱをかける時は徹底的にやる。学問の厳しさと楽しさをきちんと教える。褒めるべきは褒める。そうした学問を通した人間性の育成こそが大学の使命だからです。一人ひとりとは、必ず良いところがあるはずです。そこを伸ばしてやるのが教育だと思います。

私は理事長就任以来、「学生が大切にしてもらっていると実感できる大学づくり」を標榜しています。道のりは遠いけれど、教学側とのコミュニケーションを取りながら、この学園の目標にしたいと思っています。

（いはら とおる）

下田先生に導かれて

一般社団法人
教育文化振興実践校友会 理事長
浦上淳子



昨年11月の全国交流岩村ツアーは、全国各地から、103名の会員が恵那グランドホテルに集合してスタートしました。湯浅下田研究所所長のご講演を拝聴、その後の懇親パーティーでは同窓生の気安さから学生時代に戻って、大いに楽しんでくださったようで理事一同喜んでおります。霧にけむる翌朝、下田先生のお墓にお参りし、地元岩村の歌子会の方達のお心遣いに感動したり、学問所跡など先生のゆかりの場所を見学したりと、下田先生を身近に感じるひと時でした。天気予報はずっと雨の予報でやきもきさせられましたが、不思議と天候に恵まれ、小原市では紅葉と四季桜の競演を暖かな日射の中で見ることができました。何故か下田先生に見守られているようで、同窓生の絆を深め合えた旅だったと思います。

戦後、日本の価値観が一気に欧米崇拜に傾き、それ迄の封建的思想を過去のものとして現在に至りますが、最近はその歪みを感じ、明治以降や戦前の家庭のあり方、人間関係などに改めて目を向ける傾向にあると思います。実践女子学園は「良妻賢母」の学校といわれ、反発した卒業生も多いと思います。

下田先生は何故「良妻賢母」を目標としたのでしょうか？ 先生はご結婚はしたものの病身のご主人には早世され、お子様もいらっしやらなかったため、「家庭」「家族」には恵まれませんでした。にも拘わらず「良妻賢母」を掲げられたということは、先生にとって理想の家庭像の要になると信じられたからではないでしょうか。

結婚し子供を育てた方、現在進行形の方、「良妻賢母」が容易でないことはご存知だと思います。夫にかしずき家庭にこもっている妻が良妻であるはずはありません。良きパートナーが良妻です。賢母の家庭なら子供は倅せです。子供の個性を認め最良の道へ導き助ける。このような妻、母の家庭では「良夫賢父」になるようで、現在の社会問題や事件には無縁だと思います。多くの卒業生がそんなお母様に育てられました。そしてご自身も「良妻賢母」ではないでしょうか。誇りに思っている良いのではないのでしょうか。下田先生の教えはまだまだ学ぶべきものが沢山ございます。折にふれ、会員の皆様も学園や校友会館に足を運んでいただけたらと存じます。

さて、実践校友会も115年目を迎えますが、卒業生に比べて正会員の数があまりに少ないことが悩みの種でございます。会員の皆様のご協力を重ねてお願いするばかりでございしますが、一つうれしいニュースをお知らせいたします。創立20周年を迎えた大学生活文化学科の科会が立ち上がりました。新規の科会の発足は数十年振りのことで大変力強く嬉しく存じます。美学美術史学科、人間社会学科等、是非後に続いていただきたいと願っております。

この5月の総会をもちまして理事長の任を辞するにあたり、未熟な私が何とか大役を無事全うすることができましたことは、会員皆様のご指導ご協力の賜と心から感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

（うらがみ じゅんこ）

創立 120 周年に向けた取り組み

実践女子大学
実践女子大学短期大学部 学長
田島 眞



一昨年の渋谷校舎の完成に引き続き、本年は3月に日野校舎の改築と新校舎の建設が完了いたしました。これで、2010年から開始されました創立120周年記念事業関係建築が完成し、後は、神明校地のグラウンド整備を残すのみとなりました。校会の皆様には多大なご支援を賜りましたこと、誌面を借りて心から御礼申し上げます。

渋谷校舎と日野校舎を往復しますと、それぞれに良さがあることに気が付きます。渋谷校舎は何といっても1階エントランスからの眺めです。9階までの吹き抜けの空間は、未来型の校舎を彷彿とさせます。廊下側がガラス張りの教室は、開放的な授業を期待させます。一方、日野校舎では、広場の緑の美しさです。新築の第3館、既設の第4館と桜ホールに取り囲まれた新広場は、学生の憩いの場として、キャンパスライフが楽しめるかと期待されます。

教育目標も渋谷と日野では、それぞれに特色を持たせています。渋谷では、先端的な企業が集積している立地を活用して、「グローバル」な人材育成を進めます。日野では、地域の問題を解決する「ローカル」に活躍する人材育成です。ただ、グローバルが世界、ローカルが地域に限定されるものではありません。世界の各地で、その地域の問題を解決するというのは、グローバルであって、ローカルです。最近、こういった考えを「グローカル」と言いますが、まさに本学は「グローカル」な人材育成を目指しております。

私が学長に就任してから、力を入れているのが、教育制度及び方法の改善です。大先生が教卓に立ち、本を冒頭から読解していく昔ながらの授業も当然必要ですが、現在の学生の学修力を増すには、それだけでは適当とは言えません。今日の講義で何を学ぶのか、それがどう役立つのかを学生に事前に理解させる必要があります。いわば教育のPDCA化です。それには、例えば、詳細なシラバス（授業計画）の作成があります。科目間の関係を明確化するナンバリングも一つの方法です。こういった教育方法や制度の改善によって、大学で学ぶことが明確になると同時に、本学を卒業すれば、何が身につくかが明確になります。このことを高等学校や社会に周知し、志願者数の拡大にもつなげていきます。

もう一つが、アクティブラーニングの導入です。知識詰め込み型でなく、問題解決型授業を通じて、社会に出てからの問題解決力や課題発見力等を養成します。

今年度から新設したベストティーチャー賞の選定に当たっても、教育方法の改善に努めているか、アクティブ型の教育方法により、学生に成長実感を持たせているかを評価の対象としました。

今後も、このような教育改革を確実に遂行し、優れた卒業生を送り出す所存ですので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（たじま まこと）

様々な教育活動

実践女子学園
中学校高等学校 校長
嶋野恵子



校祖下田歌子先生は100年以上も前に、今の時代が求め、期待している「女性の社会参画」「グローバル人材育成」という大きな課題を教育の指針として実践女子学園を創設されました。その思いは教員と生徒により脈々と受け継がれて来ており、行事、委員会活動、部活動などの運営には目を見張るものがあります。

生徒たちは様々な教育活動の中で目標を共有し、達成のための努力を惜しまず、様々な場面を想定しながらデイスカッションすることで、課題を発見し、他者と協働し解決に向かう。その経験により思考力、判断力、コミュニケーション力、リーダーシップ、創造性、責任感が大きく伸張します。私が実践女子学園に奉職した年に任されたのが、生活委員会（風儀・規律）と器械体操班でした。大学を卒業したばかりで、年齢差の少ない高校生達が、素晴らしい組織運営ができていることに大きな驚きを覚えたことと、実践女子学園の歴史と伝統に裏打ちされた教育力の高さに感動したことを思い起こされます。あれから40年以上経過しました。様々な状況において低年齢化しておりますので、昔ほどの迫力はありませんでしたが、受け継がれてきた「どう生きる」は健在です。政治も経済も教育においても不透明な時代にあって、「生徒たちが卒業後、様々な課題に立ち向かっていく原動力の礎は中高での6年間の教育」という自負を持ち、これからも教職員一同、生徒たちに向き合っていく所存です。

さて、1月11日（月・祝）に学園と実践校友会との共催による「祝・成人の会」が開催されました。4回目となりました今年も、9割以上の卒業生が出席し、会場のあちらこちらで久しぶりの再会を楽しんでいました。第1部の式典には希望される保護者の皆様にもご出席していただいておりますが、今年は昨年を大きく上回る参列をいただきました。ご家族も楽しみにしてくださっているようです。実践校友会理事長浦上様を始め、寒い中、長時間にわたりクローク等でご尽力いただいた大先輩の皆様方には感謝の気持ちでいっぱいです。生徒たちにとって、大好きな実践女子学園を卒業してからも確実に繋がる場は同窓会であるということとを、「祝・成人の会」を広報しながら在校生に伝えており、今では中学生にも周知されています。実践校友会の一員として十分な戦力になるには少し時間はかかると思いますが、それまで、どうぞ、温かくお見守りいただけたらと思います。

（しまの けいこ）

第4回「祝・成人の会」に参加しました。卒業生



宇宙開発を目指して

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
研究開発部門 第1研究ユニット

春木美鈴

(平成19年／高校卒)



星の姿勢制御に係る研究に携わり、JAXA へ入社しました。

宇宙開発のお仕事

JAXA での初めての業務は、人工衛星に搭載する機器の振動データの取得と整理でした。人工衛星は画像を取得するためのカメラや望遠鏡の他に様々な機器を搭載します。中には撮像中に振動を発生する機器もあり、これらの振動は画像がぶれる要因となります。人工衛星に搭載されるカメラ等のミッション機器はとても振動に敏感な機器もあり、精度の高い撮像画像を取得するためには、これら振動を抑えることが求められます。非常に小さい振動まで気にするミッションでは、「20 分間振動を 100 万分の 15 度以下に抑える、つまり 20 分間 100 万分の 15 度動いてはいけない(*1)」、という厳しい要求があります。そのため、まず各機器がどのくらい振動を発生するのか計測する必要があります。私はこれらのデータを取得していました。データ取得は何度も条件を変えて実施し、理論と実験結果が合わなければその原因を究明し、また計測しなおすという繰り返しです。正直に言えば泥臭い仕事です。しかし、「データがミッション機器への影響を確認するのに役にたった、ありがとう」と言われた時は自分の作業が少しでも宇宙開発の役にたったと思え頑張ることができました。小さい作業の積み重ねが 1 プロジェクトの成功につながることを学びました。

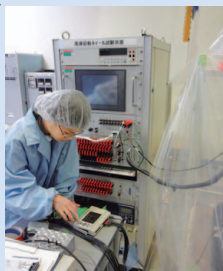
同時に JAXA は国の研究機関であるため、日本の宇宙開発について多く

の方に知っていただく広報活動も大切な役割です。JAXA では職員による小中高生への宇宙開発に関する講演活動も実施しており、私も数回担当しました。地球観測する人工衛星から見える景色の紹介や、宇宙開発の仕事について、またランチの風景等を説明しました。彼らとのやりとりは、こちらにも新しい発見があり刺激をもらっています。(毎回質問されるのは、宇宙人はいますか？ です。いるかどうか定かではありませんが、私は是非会いたいですね。)

また私が所属している研究開発本部では、半年間ラジオ番組(ディープな宇宙を…)ラジオ日本で放送していました。本番組で私は上記の振動計測について紹介しました。宇宙開発の仕事の雰囲気が少しでも伝われば嬉しいです。また趣味として実践女子学園で所属していた陶芸部の話をしました。



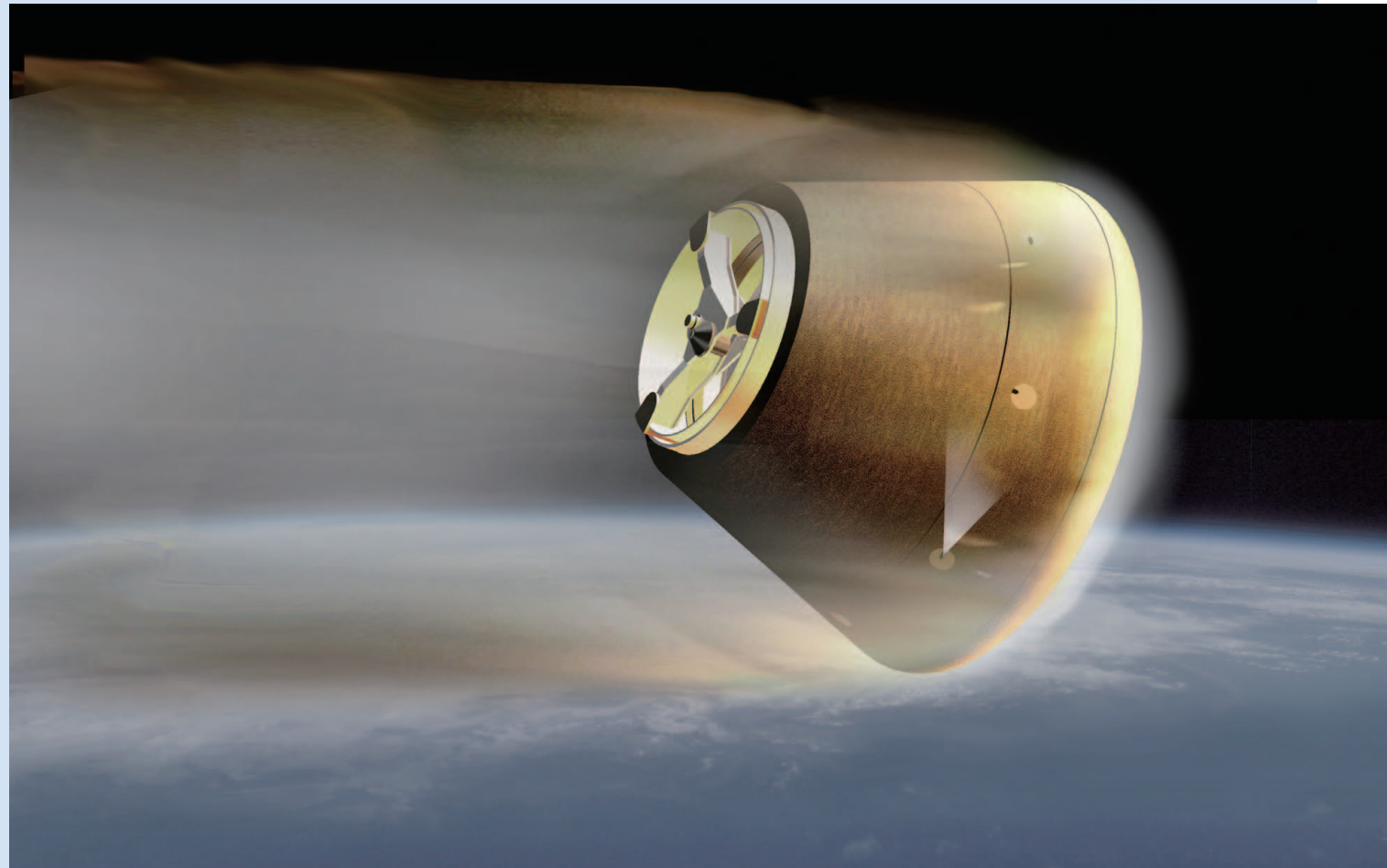
つくば宇宙センター



振動計測中

まだまだ目標の途中

現在は、国際宇宙ステーション (ISS) から物資を持って帰ってくる



小型回収カプセルのイメージ図

小型回収カプセルプロジェクトに携わっています。本プロジェクトでは、ピンポイントで地球に帰還させる(*2)という技術に挑戦しています。私は、ソフトウェアの一部分の開発を主担当として任されており(*3)、プロジェクトの成功に向けて日々悪戦苦闘しつつ、楽しい毎日を送っています。失敗し悔しくて落ち込むこともありますが、そんな時は卒業時に実践の同期が書いてくれたメッセージを読み返し、改めて実践でよかったと感じます。宇宙開発は JAXA だけではなくメーカ、大学等多くの人により成り立っています。そこに係る一人として、宇宙開発に貢献できる人間になることが今の私の目標です。

(はるき みすず)

*1 地上では宇宙環境(真空や無重力)を模擬することが難しいため、人工衛星はロケットで宇宙に打ち上げられるまで実際にどの程度振動が発生したか確認することができません。一方宇宙開発は打ち上げまで一発勝負なので、上記のような振動を抑える要求に対し、

問題がないか大丈夫か、を地上で解析・検討しチームで答えを導き出さなければいけません。私が担当していた振動計測は地上から(地球から)の振動に影響され測定が難しいです。実は地球も(地震がなくても)常に微小に振動しており、計測機器が地上とつながっているとその振動が伝わります。よってなるべく多くのデータの提供とまた計測方法を工夫し、精度の高いデータを取得するようにしました。

参考
http://www.ard.jaxa.jp/research/yuudou/yu-sub2_2.html
擾乱計測技術／データベース構築

*2 軌道上からの物資を回収する、また火星にて科学的意義のある地点で表面探査するためには、着陸時に目標点に対し、精度高く(ピンポイントで)着陸する必要があります。例えば、地球から軌道上からの物資を回収する場合、地上で予測される着水点の範囲が大きいと回収に時間がかかります。小型回収カプセルでは海に落としますが、ピンポイント着陸の技術がない場合は予測される着陸範囲は半径 110km、技術がある場合は半径 5 ～ 10km になります。時速 20km の船でとりにいくと考えると約 5 時間の短縮です。5 時間は短いように思えますが、回収品の中には ISS で実験した試料も想定されており、保冷が必要なものもあります。いかに早く研究者のところに帰ってくるかが 1 つのカギになります。そもそも予測される着陸範囲の場合は取りにくいこと(探すことが)がとても難しいです。

参 考 [http://www.ard.jaxa.jp/research/](http://www.ard.jaxa.jp/research/yuudou/yu-sub6.html)
yuudou/yu-sub6.html

*3 カプセルの中には誘導計算機(パソコンをイメージしてください。)が入っています。カプセルがピンポイントで帰ってくるためには、そのパソコンをつかって自分が地球のどの位置にいるか、どこに向かっているかを常に計算しています。私が担当しているのはこのパソコンの中に入るソフトウェアです。開発担当となるメーカさんと共に、設計から、検証(試験)までスケジュール管理、コスト管理、不具合時の対応をします。小さい範囲ではありますが 1 リーダー(?)として、開発のマネージメントをしています。

[プロフィール]
実践女子学園高等学校卒業
横浜国立大学工学部建設学科海洋空間システムコース卒業
横浜国立大学院環境情報学府卒業
宇宙航空研究開発機構入社(現在 4 年目)
その他の活動
・平成 21 年度 日本航空宇宙学会学生賞受賞
・NPO 法人 UNISEC 学生代表
<http://www.unisec.jp/unison/studenttrustee2011.html>
・朝日新聞出版 AERA U25 25 歳以下の若手紹介に掲載(広報活動)
・「夏目と右腕」にて仕事紹介で出演(広報活動)
・ラジオ日本「ディープな宇宙をつまみぐい」出演(広報活動)

実践桜会平成 28 年度年間行事予定表

□日は未定

年 月	本 部		支 部	
H28 4月	中旬	「那与竹」第 79 号発行	上旬	札幌支部 役員会(総会準備)
	9・23 日	結婚相談	上旬	函館支部 幹事会
23 日	13 日	法律相談	3・16・30 日	福島支部 第 2 ～ 4 回役員会(於: 稽古堂)
	23 日	実践キャリアネット「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」 (於: 渋谷) 年 9 回 毎月第 4 土曜日	上旬	群馬支部 総会準備
30 日		実践桜会奨学生(大学)募集・締切り	□日	千葉支部 会報「ミルフィーユ」 36 号発行
		国際交流基金奨学生募集・締切り	上旬	小田原支部 実のり会役員会
□日		実践桜会奨学生(学園)募集	上旬	福岡支部 役員会(年間事業計画打ち合せ)
	□日	入学記念品贈呈(院・大・短・中)	上旬	佐賀支部 第 1 回幹事会(支部総会準備・会計監査)
			中旬	茨城支部 第 1 回役員会(年間計画等の企画・立案)
			中旬	埼玉支部 役員会・講習会「和の香りを楽しむ」の反省・会計監査
			中旬	山梨支部 役員会(事業計画検討)
			下旬	石川支部 役員会
5 月	11 日	法律相談	上旬	札幌支部 役員会(総会案内発送)
	14・28 日	結婚相談	7 日	高知支部 第 1 回支部総会
中旬		実践桜会奨学生(大学)選考委員会(書類選考)	15 日	福島支部 平成 28 年度定時総会
	15 日	定時総会(於: セルリアンタワー東急ホテル)	15 日	関西支部 平成 28 年度定時総会
28 日		母校への助成金贈呈	中旬	佐賀支部 第 2 回幹事会(支部総会案内発送)
		実践キャリアネット「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」(於: 渋谷)	中旬～下旬	埼玉支部 役員会
			下旬	新潟支部 幹事会
			下旬	大分支部 役員会
6 月	4 日	実践桜会奨学生(大学)選考委員会(面接選考)	初旬	山形支部 総会・懇親会・研修会(於: 米沢)
	8 日	法律相談	4 日	秋田支部 総会
11・25 日		結婚相談	5 日	千葉支部 総会(於: 京成ミラマーレホテル)
	10 日	国際交流基金奨学生選考委員会(書類選考)	5 日	長野支部 役員会(於: 松本)
18 日		実践キャリアネット「総会・講演会」(於: 渋谷)	5・13・18・25 日	福島支部 第 5 ～ 8 回役員会(於: 稽古堂)
	25 日	実践キャリアネット「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」(於: 渋谷)	上旬	関西支部 役員・幹事・地区委員・合同委員会(於: しずくホテルグランピア 19F)
26 日		国際交流基金奨学生選考委員会(面接選考)	上旬	福岡支部 役員会(支部総会案内送付)
	下旬	実践桜会奨学生(学園)候補者面接	12 日	群馬支部 第 20 回総会・講演会・懇親会
			12 日	札幌支部 総会・親睦会(於: 京王プラザホテル札幌)
			初旬～中旬	茨城支部 第 2 回役員会(総会等の準備・資料作成等)
			上旬～中旬	鹿児島支部 総会・懇親会
			中旬	岩手支部 総会・懇親会
			中旬	山梨支部 ラベンダー収穫・小物づくり研修
			中旬	静岡支部 総会・公開講座
			中旬	鳥根支部 総会
			中旬	佐賀支部 第 52 回支部総会(会場未定)
			25 日	埼玉支部 第 20 回記念総会・講演会・懇親会(於: 浦和ワシントンホテル)
				講師 能楽師観世流シテ方重要無形文化財指定保持者小島英明様
			26 日	福島支部 支部総会・食事会(於: 田子野)・講演会(於: 稽古堂)講師 田口恵子様「奥の細道」
			26 日	沖縄支部 第 24 回総会(於: 那覇セントラルホテル)
			下旬	茨城支部 総会等(会場・午後の行事等は未定)
			下旬	佐賀支部 第 3 回幹事会(欠席会員への総会資料発送)
			下旬	宮城支部 支部総会
			下旬	福井支部 総会・懇親会
			下旬	鳥取支部 総会・視察研修会の打合せ
7 月	2 日	実践桜会奨学生(学園)決定	上旬	群馬支部 総会資料発送
	3 日	実践桜会奨学生(大学)説明会	中旬	埼玉支部 役員会
9・23 日	3 日	国際交流基金奨学生説明会	中旬	鳥取支部 総会・視察研修会の案内発送
	9・23 日	結婚相談	下旬	札幌支部 役員会(総会資料発送・講演会準備)
13 日		法律相談		
20 日		社会活動助成金申請締切り		
23 日		実践キャリアネット「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」(於: 渋谷)		
8 月	10～18 日	実践桜会会館夏季休暇	7 日	福島支部 第 9 回役員会(於: 稽古堂)
	20 日	実践キャリアネット「夏の会員交流会」	□日	函館支部 支部総会準備会
	27 日	結婚相談	□日	千葉支部 会報「ミルフィーユ」 37 号発行
			下旬	山梨支部 役員会(総会打合せ)
9 月	10・24 日	結婚相談	上旬	札幌支部 講演会
	14 日	法律相談	上旬	長崎支部 総会打合せ
24 日		実践キャリアネット「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」(於: 渋谷)	中旬	埼玉支部 役員会
			中旬	小田原支部 実のり会役員会
			下旬	札幌支部 役員会(講演会の反省)
			下旬	山梨支部 支部総会・研修会・懇親会
			30～1 日	鳥取支部 総会・創立 120 記念館、実践桜会会館見学予定
10 月	初旬	「なよたけ情報版」No.22 発行	2 日	長野支部 総会(於: 松本東急 REL ホテル)
	1 日	秋季運営委員会(於: 実践桜会会館)	上旬	函館支部 支部総会・親睦会(場所・日時未定)
1 日		第 1 回実践桜会奨学生交流会	上旬	関西支部 総会・親睦会・講演会の試食と役員打合せ
	8 日	学祖祭(護国寺参拝・実践桜会会館祭壇設置)	中旬	群馬支部 親睦昼食会
15・22 日		結婚相談	19 日	関西支部 総会・親睦会・講演会(於: ホテルニューオータニ大阪) 講師 仲 俊二郎先生
	12 日	法律相談	□日	千葉支部 ミニ同窓会(木更津・君津ネットワーク立ち上げ)
15・16 日		常磐祭(渋谷キャンパス)	下旬	実践桜会バザーに酢味噌噌詰寄贈予定
		常磐祭協賛金贈呈・実践桜会賞授与	□日	彩の国めぐり見学研修会(平家物語の史跡を訪ねて・深谷駅集合)
29・30 日		実践桜会バザー開催、中高「ときわ祭」に参加	□日	岡山支部 支部会開催予定(日時・場所未定)
			下旬又は 11 月下旬	愛知支部 総会(名古屋市内にて予定)

* JCN= 実践キャリアネット □日は未定

年 月	本 部		支 部	
11 月	9 日	法律相談	初旬	埼玉支部 役員会
	12・13 日	常磐祭(日野キャンパス) 常磐祭協賛金贈呈・実践桜会賞授与	6 日	愛媛支部 総会(於: 松山市)
12・26 日		結婚相談	上旬	福岡支部 総会・研修会
	19 日	実践キャリアネット「セミナー①」(於: 渋谷)	上旬	長崎支部 総会(6 日の予定)
26 日		JCN 「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」(於: 渋谷)	12 日	三重支部 総会(伊勢志摩サミット開催地にて開催・伊勢神宮参拝)
			中旬	山梨支部 (新年会・研修会打合せ)
			□日	石川支部 支部総会・懇親会
			□日	島根支部 講演会(出雲文化伝承館と協賛予定)
			□日	山口支部 会員交流会(紅葉狩りを予定)
12 月	3 日	実践キャリアネット「在学生支援活動」	上旬	新潟支部 支部会報発行
	10 日	結婚相談	上旬	関西支部 役員・幹事・地区委員合同委員会(於: しずくホテルグランピア 19F)
27～1 月 5 日	14 日	法律相談	□日	千葉支部 会報「ミルフィーユ」 38 号発行
		実践桜会会館冬季休暇		
H29 1 月	8 日	歌舞伎観劇会(於: 国立劇場)	15 日	福島支部 第 10 回役員会
	9 日	祝・成人の会	下旬	札幌支部 役員会(次年度の打合せ)
14・28 日	11 日	法律相談	下旬	埼玉支部 新年会(第 21 回総会開催等の打合せ)
	21 日	JCN 「セミナー② 新年会員交流会」	下旬	山梨支部 研修会・懇親会
28 日		JCN 「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」		
	□日	実践桜会新委員選出		
2 月	8 日	法律相談	上旬	群馬支部 役員新年会
	11・25 日	結婚相談	中旬	埼玉支部 役員会(講習会・支部総会開催の準備)
25 日		JCN 「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」		
3 月	4 日	第 2 回実践桜会奨学生交流会	中旬	札幌支部 役員会(総会準備)
	8 日	法律相談	下旬	茨城支部 第 3 回役員会
11・25 日		結婚相談	下旬	鳥取支部 役員会(次年度の打合せ)
	25 日	JCN 「卒業生の為の仕事についての何でも相談会」	□日	埼玉支部 実技講習会(楽しい絵手紙作り)
	□日	卒業記念品贈呈(院・大・短・高)		

学園だより

創立 120 周年記念 2 期
整備計画募金の御礼

1 期整備計画事業の募金に引き続き、平成 27 年度は、2 期日野校地整備計画事業に対するご寄付を募ってまいりました。この 1 年間、実践桜会支部や卒業生各位をはじめ、学園関係の皆様方の多大なるご理解と支援を賜り、寄付金総額が 1 億 2 百万円に達しました。お蔭をもちまして目標額の 1 億円を達成することができました。

平成 23 年度の 1 期整備計画募金開始から 2 期整備計画募金終了の 5 年間という長きに亘り、皆様にご支援・ご協力を賜りましたことに衷心より篤く御礼を申し上げます。

実践女子学園理事長 井原 徹

1. 平成 28 年度
向田邦子文庫 展示(予定)

- 向田邦子を知る④ 交流のあった人達
ー旧蔵書の署名入り本よりー
平成 28 年 4 月 1 日(金)～7 月 27 日(水)
- 向田邦子の好きなもの①
ー器ー 暮らしの道具に見る(仮)

- 平成 28 年 8 月 1 日(月)～11 月 30 日(水)
・向田邦子の好きなもの②
ー猫ー 旧蔵書に見る(仮)
平成 28 年 12 月 5 日(月)～平成 29 年 3 月 25 日(土)
※タイトル、日程は変更になる場合もあります。最新情報は HP 等で確認をお願いします。
※詳細は実践女子学園ホームページをご覧ください。

2. 実践女子学園香雪記念資料館
平成 28 年度企画展 年間スケジュール

- 第 16 回 学祖・下田歌子展 皇室と下田歌子
平成 28 年 4 月 3 日～6 月 3 日
- 実習生による複製絵画展(仮)
中国美術史入門展Ⅰ期(仮)
平成 28 年 7 月 4 日～8 月 7 日
- 1797 年の江戸の交友
ー佐藤一斎と《名流清寄》の世界(仮)
平成 28 年 10 月 10 日～12 月 10 日
- 中国美術史入門展Ⅱ(仮)
平成 29 年 1 月 10 日～2 月 1 日
※展覧会、会期は仮のものです。今後変更する場合があります。

3. 実践女子大学・実践女子大学短期大学部
公開市民講座(予定)

平成 28 年度は以下の講座を予定しています。
【国文学科】宮沢賢治生誕 120 周年ー宮沢賢治の愉しみ・研究の現在(いま)とこれから
【英文学科】「文学」から離れて文学を考えるー「事実」と「フィクション」の間
【人間社会学部】どうする? どうなる? 女性のキャリアー 仕事 × 育児 × 介護の時代
【生活科学部】日野の暮らしを楽しむ
※日時等詳細は決定次第、本学ホームページにてご案内いたします。

ホームカミングデー
開催のお知らせ

大学・短期大学部: 平成 28 年 11 月 12 日(土)
日野常磐祭の開催に併せ、第 18 回ホームカミングデーを日野キャンパスで開催します。2 期整備計画事業による、新第 3 館、大規模改修をした本館や 1 館の明るくモダンな日野キャンパスにご参集ください。
※詳細は、決まり次第ホームページにてお知らせします。

学園行事予定表

年 月	学 園		年 月	学 園	
H28 4 月	3 日	入学式(大学・渋谷)	9 月	18 日	オープンキャンパス(日野)
	4 日	入学式(大学・日野)	10 月	8 日	護国寺墓参
5 月	7 日	入学式(中・高)		15・16 日	常磐祭(渋谷)
	22 日	学園創立記念日	11 月	23 日	オープンキャンパス(渋谷)
6 月	19 日	オープンキャンパス(日野)		29・30 日	ときわ祭(中高)
7 月	31 日	オープンキャンパス(日野)	H29 3 月	12 日	常磐祭(日野)
				13 日	ホームカミングデー (日野)
8 月	7 日	オープンキャンパス(渋谷)			常磐祭(日野)
	21 日	オープンキャンパス(日野)			
	28 日	オープンキャンパス(渋谷)			

下田歌子に学ぶ(4)

実践女子学園の創立

実践女子学園 下田歌子研究所所長
実践女子大学 文学部 国文学科教授

湯浅茂雄

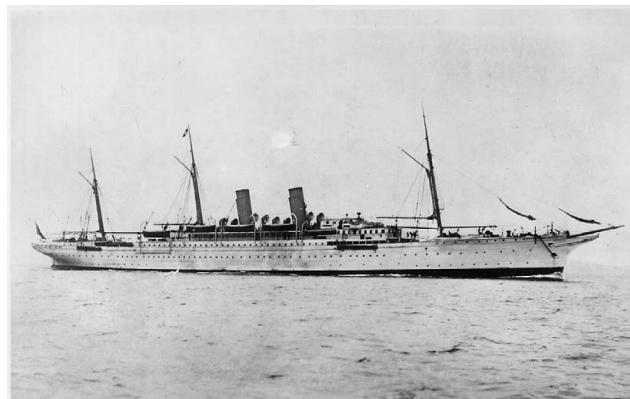


下田先生の帰国の経路をめぐって

実践女子学園の創立をめぐる事柄に入る前に、下田先生がイギリスからアメリカ経由で帰国した経緯について、最近になって研究所の調査（下田歌子研究所事務長 奥島尚樹氏による）で明らかになったことがあるので、最初に触れておきたい。

下田先生が帰国に向けてイギリスを出国したのはリバプール港からであり、明治28年7月4日に出航し、目的地はカナダのモントリオール港であったことが判明した。船名は英国船籍「Labrador（ラブラドル）号」であり、10日間の船旅で、7月13日に到着したことが確認できる。

以後のアメリカへの経路は調査中だが、アメリカで約1ヶ月の女子教育視察を終えて、下田先生が最終的に帰国の途についたのは、再びカナダからであ



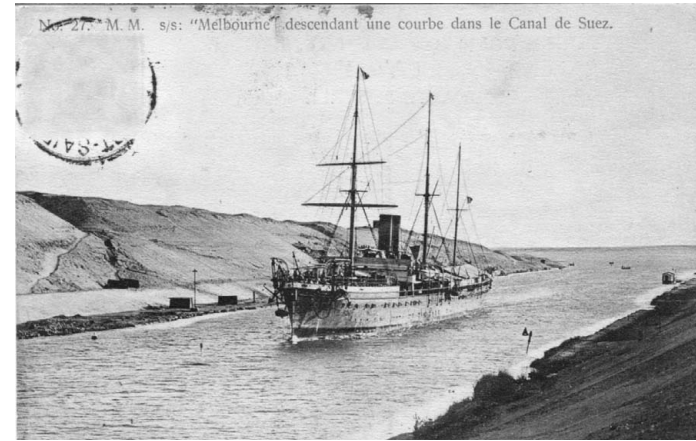
[1] 「Empress of India」

る。具体的にはバンクーバー港を同年8月5日に出航し、8月19日に横浜港に到着していることが分かった。船は英国船籍の「Empress of India」[写真1]という郵便船で、バンクーバー港、横浜港間を15日間で結ぶ直行便であった。

これまで下田先生の帰国は8月20日（前号でもそのように記した）とされてきたが、8月19日が正しい。また、往路の横浜出航についても、船名はフランス船籍「メルボルン号」[写真2]であり、マルセイユ港には明治26年10月19日に到着、約40日の船旅であったことも確認できた。また、往路の横浜→マルセイユ、帰路のバンクーバー→横浜の船旅には「従者」として堀江義子氏が同行していることがほぼ確認できる。堀江義子氏が下田先生の女子教育視察の全行程に付き従ったことを必ずしも意味しないが、その役割は決して小さくなかったと考えられ、今後、堀江義子氏の動向についても調査を継続して行くつもりである。詳しくは奥島尚樹「下田歌子先生世界一周（？）教育視察（1）（2）」（下田歌子研究所「ニューズレター」No.5/No.6〈2015.11/2016.3〉）を参照されたい。

帝国婦人協会の設立 —本学園の建学の精神

下田先生は1985年（明治28年）8月19日の帰国後、華族女学校学監に復職するとともに、一般女子の教育機関設立に向けて奔走する。約2年間の準備



[2] スエズ運河を通過するメルボルン号

期間を経て、明治31年11月に帝国婦人協会を結成し、自ら会長に就任する。そして翌年明治32年5月に帝国婦人協会の元に、一般女子教育の拠点としての我が実践女子学園を創立するのである。

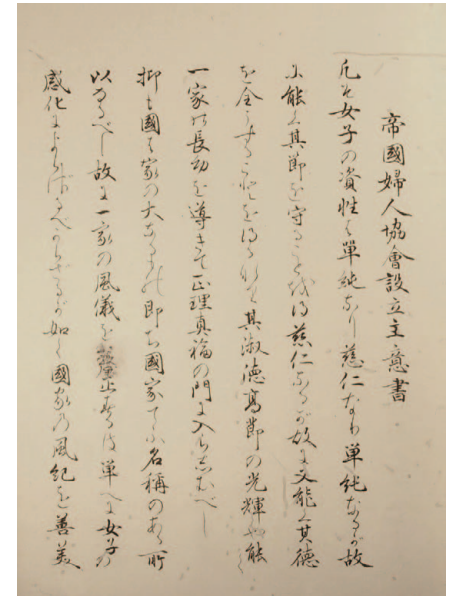
この帝国婦人協会を設立するにあたって下田先生が起草した『帝国婦人協会設立主意書』には学園創立の根本理念が示されている。「主意書」は文章家としても知られた下田の面目躍如たる名文である。下田先生らしく和漢洋の学識に裏付けされた文章であり、5200字を超える長文である。明治30年代初頭における、女性であることの矜持とその責任を高らかに宣言した気迫に満ちた文章である。多くの文言の中で、下田先生の教育理念が表された文章の一部を挙げる（引用にあたって、句読点、読み仮名を補った）。

・まことに揺籃^{ようらん}を揺がすの手は、以て能く天下を動かすことを得べし。虎を狩る獵師^{りゅうし}は、雄虎を恐れずして雌虎を恐る。社会風潮の清濁^{しやうたく}は、其源を男子に始むるにあらざして女子に基^{もと}するなり。

・まことにこの下等婦人が徳を高め、智を進め、其助^{そのたすけ}によりて、以て自他の利益を謀らしめんが爲に、少しく其実力をも養はしめ、其自活の道をも立てしむるにしく者なきを信ずること切なり。

実践女子学園は、この帝国婦人協会のもとに設立されたのであり、ここに本学園の教育理念が端的に示されている。「女性が社会を変える、世界を変える」という気概をもち、「品格高雅にして自立自営し得る女性」の育成を目指してきたのである。

「揺籃を揺がすの手は、以て能く天下を動かすこと



[3] 下田先生直筆「主意書」

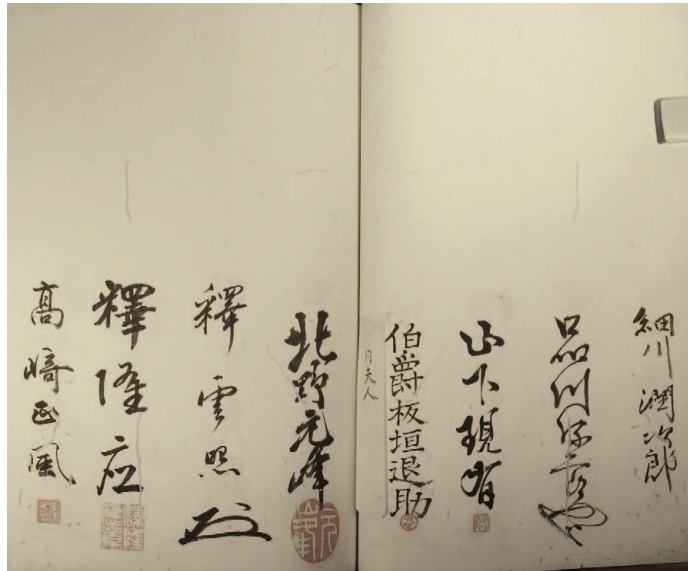
を得」の表現は、19世紀のアメリカの詩人、ウィリアム・ロス・ウォレス（William Ross Wallace 1819-1881年）の詩（1865年）における次の言葉（翻訳）によると考えられる。

"The Hand That Rocks The Cradle Is The Hand That Rules The World"

下田先生はこの言葉を引くにあたって、その前後の部分で、女性が社会に大きな影響を及ぼした古今東西の歴史的事実を紹介することで、この言葉に下田先生の女子教育における理念を込めているのであり、単なる引用ではない。最後に趣意書の最後の一節を引用する。

・蓋し余等が望み大なり、余等が力や小なり。小を以て大を行はんとする、もとより其事の至難なるべきを知る。然れども陽氣の発する所、金石もみな通り、志の行く所、何事かならざらん。（中略）ここに意を決して、一点の火を我が婦人社会に放つことを試みんとすなり。あはれ大方の君子、幸いに発起者が力の足らざるを哄笑することなくして、能く其微衷^{そのびちゆう}のある所を洞察賛助あらんことを、切に熱望して止まざるなり。

この「主意書」による呼び掛けを以て多くの賛同者を募り、実践女子学園の誕生に至った。[写真3]は下田歌子研究所が蔵する下田先生直筆「主意書」の原本である。この原本には「主意書」に賛同し、署名した板垣退助をはじめとする各界の錚々たる人物の直筆の署名がある[写真4]。別に寄付名簿も残っていて、物心両面からの援助をいただいていたのであった。「主意書」は原本以外にも複数部あった可能



[4] 署名



[5] 出雲大社東京分祀社殿



[6] 実践女学校の校舎（昭和7年）



[7] 清国留学生（後列）

性もあるが、現在は原本のみが残る。原本に見える署名は以下の通りである（署名当時役職を中心に注記する。署名順）。

土方久元（明治31年まで宮内大臣）・同夫人亀子、東久世通禧（枢密院副議長）、千家尊福（東京府知事）、近衛篤磨（明治28年学習院院長）・同夫人貞子、細川瀧次郎（女子師範学校長・学習院院長心得）、品川弥次郎（明24年松方内閣内務大臣）、山下現有（明治35年浄土宗管長）、板垣退助（明治31年大隈内閣内務大臣）・同夫人絹子、北野元峰（のち、大正9年永平寺貫主曹洞宗管長）、釈雲照（明治32年仁和寺門跡）、釈隆応（のち、大正9年仁和寺門跡）、高崎正風（御歌所初代所長・国学院初代院長）、松方正義（明治24年内閣総理大臣）・同夫人政子、田中光顕（明治31年大隈内閣宮内大臣）・同夫人伊與子、内藤忠勝（明治33年桂内閣内務大臣）

全ての人物に細かく言及できないが、^{せんげたか}千家尊福は姓からも分かるように出雲大社の宮司であり、現在も六本木にある出雲大社東京分祀（港区六本木7-18-5）の初代宮司である。「主意書」の日付（明治31年10月）の翌11月に、学校の認可権を持つ東京府知事に就任している。「主意書」に賛同し署名した縁もあってか、現在の東京分祀の社殿〔写真5〕はGHQにより撤去を命ぜられた香雪神社の社殿が移設されたものである。近くに寄られた際には一見をお薦めしたい。

原本から確認できる賛同者だけでも、その夫人を含む有力な政治家、教育者、神、仏にわたる宗教家、

文人など幅広い支援を得たことが確認できる。

実践女子学園の創立

上の経緯を経て、明治32年に帝国婦人協会の事業として、実践女学校・同女子工芸学校・同付属慈善女学校・同付属^{かみ}婢養成所の4校を開設した。

一般には、付属慈善女学校以下の2校を下田先生が開設しようとしたことは意外に知られていない。慈善女学校はその規則に「孤独貧困なる女子を教育して之に自活の道を授くる」とあり、下婢養成所は「下婢たらんと欲するもの若しくは現に他人の下婢たる者の為に必要な教育を施す」ことを目的するものであった。社会的な弱者を救済しようとする下田先生の強い意志の現れであったが、当時であつては下婢を学校に出そうとする雇用者は少なく、また、慈善女学校の試みも、時代的にあまりに先駆的であったために、生徒は集まらず、この2校はやがて閉じることとなった。結果的に、実践女学校〔写真6〕・同女子工芸学校の発展が、現在の本学園の基礎となった。

また、下田先生は実践女子学園だけでなく、多くの女性教育機関の創設、運営に関わって行った。我が実践女子学園はこれらに先立って創立されたが、それは女性の社会的地位の向上を目指す拠点の一つとしてのものであり、下田先生の思いは実践一校に止まることなく、広く日本の女子教育全般に及んでいたのである。その志の大きさに学ぶべきである。以下は下田先生が創立および運営に関わった女子教

育機関である。

- ・裁縫伝習所（後の新潟女子工芸学校、現在の新潟青陵学園。明治33年、帝国婦人協会新潟支会の事業として、勝間田千代子、千頭トクラと共に設立）
- ・順心女学校（後の順心女子学園、現在の順心広尾学園。大正7年、大日本婦人慈善会の事業として板垣絹子（板垣退助の妻）により設立。下田歌子は招聘され、理事長・校長に就任）
- ・淡海女子実務学校（後の淡海実践女学校、現在の淡海書道文化専門学校。大正8年、塚本さとが私財を投じて設立。後に下田歌子が校長に就任する）
- ・通信省附属明德女学校（通信省貯金局女子従業員の教育機関として大正10年設立）
- ・愛国夜間女学校（愛国婦人会の事業として大正13年創立）

通信省附属明德女学校の創立以降は、下田先生が大正9年に愛国婦人協会会長となつてからの事業であり、先生の社会福祉事業家としての側面を物語るものでもある。先生は会長に就任してから、現在でも行われている福祉事業の多くを実現している。特に大正12年9月1日に発生した関東大震災に際しては、多くの被災者の救援を行っており、その後も多くの社会的弱者に救いの手を差し伸べている。愛国夜間女学校の創立もその一環であつたであろう。

また、時代を遡ることになるが、学園の清国女子留学生〔写真7〕の受け入れについても触れるべきであろう。創立後間もなく、明治34年、実践女学校にはじめて清国留学生1名を受け入れた。明治38年には清国留学生部を設け、本格的な受け入れ体制を

整備した。明治期を通算すると、女子学園としては最も多くの清国女子留学生を受け入れている。この中には、中国の婦人解放運動のリーダとなった秋瑾もあり、実践で教育・工芸・看護学などを学び、纏足の女子留学生もスポーツ（テニスなど）をし、衛生学などを学んだ。

下田先生は、日清は兄弟の国であり、女子留学生に教育を施すことは、中国に対する恩返しであると考えていた。また、下田先生は留学生を受け入れただけでなく、求めに応じて清国に女性教師の派遣も行っている。下田先生の女性の地位向上の基礎としての女性教育への思いは国の違いを超えていたのである。

おわりに

明治32年5月7日、実践女学校・女子工芸学校を合わせて入学式に40名の生徒を初めて迎えてから、現在、実践女子学園は中高・大学・短期大学部を通算して1800名余の入学生を迎えるに至っている。

しかし、下田先生の「百年の長計」は未だに達成されていない。より良い社会、世界を実現するために、女性の社会的役割がますます重要な時代になっている。我々は、明治という時代に「女性が社会を変える、世界を変える」と唱えた創立者の志を受け継ぐ者である。常に原点を確認し、今を検証し、「百年の長計」の達成に全力を傾けていきたい。

（ゆあさ しげお）

香を楽しむ伝統芸道—香道

御家流香道 23 代宗家

三條西(公彦)堯水



香道とは

今回実践桜会会報誌「那与竹」に掲載の機会を与えていただき感謝致します。2 年前(2014 年)実践女子学園「宮廷の華 源氏物語の世界」の図録に香道のこと、三條西家のこと等々を書かせていただきました。今回の執筆はその時と話が重ならないようにしました。また同じことが書かれているなど思われた方はお許しください。

香道は茶道・華道と並ぶ日本の三大芸道のひとつと言われています。しかし三大と言われながら茶道・華道ほど一般には知られていません。香道ではいったいどのようなことをするのでしょうか。まず香道の香です。香という思い浮かぶのはいわゆる線香に代表されるお香でしょう。しかし香道ではこのような人工的に作られたお香は使用しません。香道では香木と呼ばれるものを使用します。その香木は主として東南アジアにはえる沈丁花科のアクラリアと呼ばれる木から取れる樹脂です。この樹脂の生成は自然にたよるしかなく偶然の産物といっても過言ではありません。生成された樹脂もすべてが使用できるわけではなく、香道で使用できる上質なものは大変希少なものととなります。この希少性ゆえに香道は一般性を否定してきたということもできるかもしれません。香道ではこの香木を細かく 6 種類に分類し、六国(伽羅・羅国・真南蛮・真那賀・佐曾羅・寸間多羅)と呼んで使用します。

組香の楽しみ

ここで、現代の香道の席(香席という)で 99.9%行われている組香について紹介しましょう。組香は先ほどあげた六国中の数種類を用い、とあるテーマに基づきその異同を当てる少しゲーム性をもった遊芸です。とは言っても

この説明ではまったくわかりません。具体例を挙げてみましょう。

常磐香

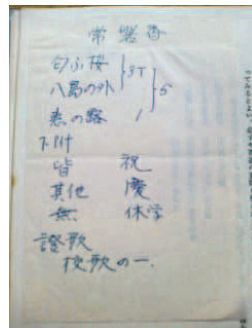
この常磐香は私の祖父三條西公正(堯山)(1901 ～ 1984)が実践女子大の教授をしていたときに、新たに作成した組香です。(常磐香小記録参照)

まず証歌とありますが、証歌というのは主題(メインテーマ)となります。簡単にいうとこの証歌の世界を数種類の香りで表現しているということになります。和歌が用いられることが多く、時に俳句や漢詩等も用いられます。

この常磐香の証歌はここを読まれる方なら誰もがご存知でしょう。そう、実践女子学園の校歌です。

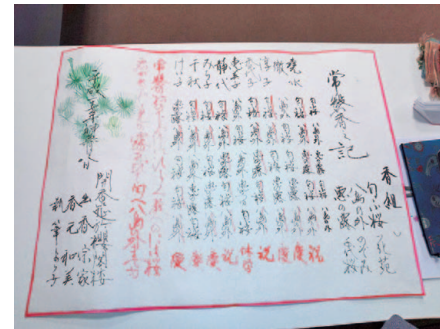
実践女子学園の現在の校歌は、1932 年(昭和 7)年に当時の下田歌子校長によって改詞されたものです。本学の伝統と華やかさ、女性らしさに加えて、「にほへやしまの外までも」の一節では国際的な視野と強い想いが謳われています。(実践女子学園 HP より)この校歌の世界観を香木の香りで表現するのです。

この校歌から、「匂ふ桜」「八島の外」「恵の露」の 3 つの語句を使用し、それぞれを香木の名前とします(要



三條西公正 21 代宗家の書いた常磐香のメモ

常磐香証歌				香組			
無	その他	皆	下附	恵の露	八島の外	匂ふ桜	
				1	5T		
					5		
休学	慶	祝					



常磐香の香記

桃李祭での香席風景



素名という)。

「匂ふ桜」「八島の外」をそれぞれ 3 個ずつ、「恵の露」を 1 つ、香木を用意します。「匂ふ桜」「八島の外」は 3 個ずつの内、1 個を試香とします。試香は事前に聞いて(香道では香りは嗅ぐと言わず「聞く」と言います)覚えておく、言わばヒントとでもいう香です。「匂ふ桜」「八島の外」の香りをそれぞれ記憶しておきます。

試香を全員が聞き終った後、その出てくる順番を当てる本香が廻ってきます。本香は「匂ふ桜」「八島の外」が 2 個ずつ、「恵の露」が 1 個、計 5 個が順不同で廻ります。その順番を当てます。ここで「恵の露」は試香が無いから分からないという方もいるかもしれません。しかし、「匂ふ桜」「八島の外」以外の香りが廻ってきたら「恵の露」と考えてもらえれば、「恵の露」は分かるはずで

す。5 個の本香を聞き終った後、手記録紙と呼ばれる解答用紙にその順番を記述していきます。この手記録紙は全員分が回収され、記録紙(香記)と呼ばれる奉書に書写されます。書写後「本香の出」と言って、正解が先ほど香をたいた香元から発表されます。そして書写された記録紙に各自の結果(正解・不正解)が記録されていきます。言わば試験の採点とでもいう塩梅です。

この常磐香はそれだけでは終わりません。「下附」というものが設定されています。組香は中り外れがありますから、当然点数をつけることができます。その点数を 1 点 2 点と数字で表すのではなく、言葉で表現するのが下附です。

常磐香の下附は皆(全問正解)は「祝」、その他は「慶」、そして無(全部外れ)は「休学」となっています。そう全部外してしまった方は休学という点になってしまいます(留年、赤点としなかったのは祖父の優しさかもしれません)。この文章をお読みの方々には落第点を取って休学したという方はいないとは思いますが、そんな体験も疑似体験できてしまいます。ここにも組香のおもしろさ、楽しさが



実践女子大学香道研究会の皆さんと

あります。

先ほど各自の答えと結果(成績)を記述した記録紙は、その記録紙の中で一番成績の良かった方に香元から授与されます(これも少し学校みたいで

す)。最後に香元が「香満ちました」と挨拶をして香席は終了します。参加した人全員の胸の中にお香の香りがいっぱいになったことでしょうかという意味で、この言葉によって全員がお香の余韻の中散会となります。

ここまで読むと、香席はお香の中り外れを競うもののように思われる方もいるかもしれません。しかしお香の中り外れを競う俗っぽいことだけでは、香道と呼ばれるはずありません。香席で大切なことは香りで表現された証歌の世界を鑑賞し楽しむこととされています。実際にそれは少し難しいかもしれません。しかし出てきた希少な香を敬い楽しむことは、そう難しいことではないかと思ひます。簡単に言えば好きな香りがあった、面白い香りがあったでいいのです。

この常磐香は、実践女子大学香道研究部や、その卒業生の集りである実香会では今でも折に触れて行われています。このような組香は色々な主題によって数百種類あります。是非一度気張らずに香席で組香を体験していただければ幸いです。(さんじょうにし ぎょうすい)

孔子を誘惑した女性

文学部国文学科教授 影山 輝國



子見南子。子路不説。夫子矢之曰「予所否者、天厭之、天厭之。」（雍也篇）

子、南子に見ゆ。子路説はず。夫子これに矢って曰わく「予が否き所は、天これを厭たん、天これを厭たん」と。

孔子が南子にお会いになった。子路はそれが気に入らなかった。すると孔子は誓って言われた、「私にもし不善の行為があったなら、天が私を見捨てるであろう、天が私を見捨てるであろう。」

『論語』にはたった一人、女性が登場する。それが南子だ。孔子が祖国魯の政治に失望し、故郷を捨てて十三年に及ぶ諸国遊歴の旅に出たのは、五十六歳の時であった。

衛の国を訪問した時のことである。当時衛の国の君主は霊公といった。ある時、霊公の夫人の南子からお会いしたいとの誘いが来て、孔子は会いに出かけたのである。弟子の子路はこの面会を不快に思った。すると孔子は、「私にもし不善の行為があったなら、天が私を見捨てるであろう」と誓った、というのである。なぜ子路は南子との面会を喜ばなかったのか。孔子はどうして自分の潔白を示す誓いをたてたのであろうか。

それは南子が奔放、淫乱な女性として評判であったからである。彼女は霊公という夫がありながら、宋朝というイケメンと恋仲であった。南子は宋国から衛国に興入れした女性で、宋朝も宋国の公子であり、二人の関係は南子が霊公に嫁ぐ前からすでに始まっていた。結婚後、霊公はあろうことか南子を喜ばせるために宋朝を宋から呼び寄せたのである。

なんという情けない男だと思われるが、霊公は霊公

で、弥子瑕という若い寵臣と男色関係にあったのである。

『韓非子』「説難篇」にこんな話が載っている。

弥子瑕の母親が病気になった際、彼は無断で霊公の馬車に乗り、母を見舞った。衛国の法では君主の馬車を許可なく使用した者は刖という足切りの刑に処せられる。弥子瑕の取った行動を知った霊公は「刖の罪を恐れず、病気の母のもとに駆け付けたとは、何という孝行ものだ」と言って彼を誉めた。また、ある日、二人で果樹園を散歩していた時、弥子瑕が桃の実を採って食べたところ、とても甘くておいしかったので、全部食べてしまわずに半分を霊公に差し上げた。霊公は「甘い桃を独り占めにせず、半分くれるとは、何と私への愛情が深いのか」といたく感心した。しかしその後、弥子瑕の容貌が衰えてくると、霊公は次第に彼を疎ましく思い、「弥子瑕はけしからん。勝手にわしの馬車を乗り回し、食いかけの桃を食わせた」と言って彼を罰したという。この話がもとになり、中国では、食べ残しの桃をあらわす「余桃」や、桃を二つに分ける意味の「分桃」という語が「男色」を意味する隠語となった。

この霊公夫人の南子と孔子との面会を、司馬遷は『史記』「孔子世家」の中で次のように描写している。

南子から孔子のもとへ使者が来て、「各国の君子で、霊公さまと兄弟のように親しい交わりを結ぼうとされる方は、必ず南子さまに謁見されます。南子さまもお目にかかりたがっておられます」と伝言した。孔子は初め断ったが、やむを得ず会いに出かけた。対面の際、南子は御簾の中に居て、孔子がお辞儀をすると彼女も二度会釈を返した。すると彼女の腰につけた玉飾りの音が瑒然と鳴り響いた。孔子は帰宅すると「これまで謁見していなかったが、いま答礼してきた。」と言われた。



「聖蹟図」より

『史記』「孔子世家」では、このあと「子路説はず」以下の『論語』の文章が続いている。一体、孔子と南子の間になにが起こったのであろう。「南子の腰につけた玉飾りの音が瑒然と鳴り響いた」の後、すぐに孔子が帰宅する記事になっている。その間に何が起こったのか。司馬遷は随分思わせぶりの書きかたをしたものではないか。

最初に掲げた『論語』雍也篇の章は、古来から『論語』の注釈者の間で大問題となった。聖人である孔子さまが淫乱な女性に誘惑されるはずがない、と考えるからである。では、どのように解釈して孔子を弁護するのだろうか？

『論語』には代表的な注釈書が二つある。それは三世紀、三国魏の時代に何晏が代表者となって書いた『論語集解』と、十二世紀、南宋時代に朱熹（尊んで「朱子」という）が書いた『論語集注』である。前者は「古注」、後者は「新注」を呼ばれている。もちろん両者ともに孔子を弁護するのであるが、弁護の仕方が微妙に異なっている。

「古注」の解釈はこうだ。南子は確かに淫乱な女性であるが、霊公が南子の言いなりになっていたから、南子を足掛かりに霊公を説得し、衛国に正しい政治を行わせようとしたのである。

それに対し「新注」は以下のように解釈する。古代に

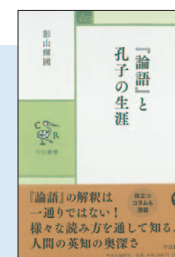
おいては、ある国に仕えれば、その夫人に会見するのが礼儀であった。会見するのが礼儀であれば、相手の善不善は自分には関係ないと孔子は考えられたのだ。子路は孔子の気持ちを理解できず、淫乱な女性と会うことを恥じた。だから孔子は二度繰り返して誓い、子路がこの誓いをひとまず信じて、その後おいおい熟考して、わかってくれることを期待したのである。

二つの注ともにだいたい弁護に苦勞しているようである。さて、孔子の真意がどこにあり、南子との間になにが起こったのか、今となっては永遠に謎なのである。（かげやま てるくに）

影山先生の著書が出版されました。

『論語』と孔子の生涯

中央公論新社 2016年3月25日
定価 1,900円(税別)



日頃から『論語』を愛読している方はもちろんのこと、興味はあるけれども、とっつきにくいイメージから手を出せずにいる方、なにかから読みはじめてよいか迷っている方にもおすすめです。きっと誰かに話したくなるような面白い話題満載。是非、ご一読ください。

「魔女バジル」と これからの抱負

茂市久美子

(昭和49年／大英卒)



1981年2月、29歳で初めて本を出してから35年たちます。

思えば、小学校の5、6年生の頃から、大きくなったら童話作家になりたいという夢を抱いて、幸いなことに、その夢をかなえることができました。でも、初めての本は、『氷河と青いケシの国』という紀行文で、童話の本『ようこそタンポポしよくどうへ』を出すことができたのは、それから8年もたってからでした。以来、1年に2冊から4冊のペースで童話の本を出して、その数は、現在、70冊あまりになります。

そんなわたしが書いてきたものは、短編連作のファンタジー作品がほとんどです。

ところが、いま書いている「魔女バジル」シリーズ(講談社)は、短編連作ではありません。長いこと童話を書いてきましたが、「魔女バジル」のような長編のシリーズは、考えてみたら、なんと初めてのことになります。

これは、魔女の世界で、ほうきにのるのが苦手なバジルが、人一倍の努力をして、見習いから一人前の魔女に成長し、やがて、ある使命を果たす物語です。



現在、第1巻の『魔女バジルと魔法のつえ』と、第2巻の『魔女バジルとなぞのほうき星』が出ています。この物語は、実は、6年前から、毎日新聞の関西版に、毎年、1ヶ月間、連載しているもので、新聞では、第5弾まですすんでいます。

「魔女バジル」のように、これまで新聞や雑誌に連載した作品は、幸い、すべてが、その後、本になってきました。

もしかしたら、連載したものは、手を加えなくてもすぐ本になるように思われているかもしれませんが、わたしは、連載のときの原稿をそのまま使用することはなく、必ず書き直しをしています。ちなみに、「魔女バジル」では、新聞に連載したものを本にするとき、新しいエピソードや登場人物などを書き加え、原稿の枚数を倍近くにしています。

「魔女バジル」は、新聞で、今年、第6弾、来年、第7弾を書いて終了する予定です。本来なら、それにあわせて、本も7巻で終わらせるところですが、本は、新しい物語をさらに書いて、10巻で終わらせたいと考えています。10巻を目差すと、これから1年に1冊、本を出したとして、物語が完結するのは、わたしが、70歳を過ぎてからでしょう。それまで、元気でいられるとよいのですが……。

話は変わりますが、わたしの生まれたところは、岩手の新里村茂市というところで、わたしは、旧姓をペンネームにしています。

新里村は、11年前、陸中海岸国立公園の景勝地・浄土ヶ浜で知られる宮古市と合併して、宮古市となりました。

その沿岸部は、2011年3月11日、1000年に一度という大津波におそわれました。

高校の3年間、列車で宮古に通学していたわたしにとって、沿岸部の町は、第2の故郷といえるところ

で、これまで、課題図書にもなった『アンソニー・はまなす写真館の物語』(あかね書房)など、いくつもの物語の舞台にしてきました。

震災直後、宮古市で小学校の教

師をしている親しいK先生に、わたしに何かできることはないか、電話をすると、すかさず「茂市さんにできることは、子どもたちのために、童話を書くことです。みんな、茂市さんの新しい童話を楽しみにまっています」ということばが返ってきました。そんなK先生のこともあって、震災直後から、宮古市とその周辺にあるすべての小学校に、地元の書店さんを通して、わたしの新刊を届けてもらっています。55校あった小学校は、生徒数の減少で年々少なくなり、現在49校になってしまいましたが、自分が新刊を出せるあいだはずっと、各小学校へ本を届け続けたいと考えています。

それから、大津波によって甚大な被害をうけた海岸沿いの人々の暮らしをよく知る者として、あの大震災のことを書かなくてはと思いながら、悲慘な光景を思い出すのが辛くて、これまでずっと、何も書けずにいました。でも、今年は、大震災で息子さんとご主人を亡くした、大槌町の81歳になる小畑幸子さんと愛犬の太刀^{たち}の話をもとめる予定です。

小畑さんについては、朝日新聞などのマスコミで何度もとりあげられましたので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、わたしにとって、初めてのノンフィクションです。

さらに、話は変わりますが、今年から、講談社児童



文学新人賞の選考委員をすることになりました。この賞は、恩師の那須辰造先生が長いあいだ選考委員を務められた賞でもあります。

那須先生がお亡くなりになったのは、昭和50年4月5日のことで、当時、わたしは、大学卒業後就職した銀行を1年でやめ、講談社でアルバイトをはじめたばかりでした。

あれから40年。昨秋、講談社の担当者から、選考委員のお話をいただいたときには、天国の那須先生が、このことを知ったら、どう思われるかしらと、那須先生のことや当時のことがしきりに思い出されてなりませんでした。

最後に、今年は、「魔女バジル」の第3巻『魔女バジルと黒い魔法』と、短編連作の『アンティーク・シオンの小さな奇跡』(学研)が出ます。ご愛読いただけましたら幸いです。

(もいち くみこ)

【プロフィール】
岩手県出身。『おちばおちばとんでいけ』で、第3回ひろすけ童話賞を受賞。『ゆうすげ村の小さな旅館』は東京書籍小3国語教科書に掲載されている。「つるばら村」シリーズ(全10巻)、「またたびトラベル」シリーズなど、その世界観は幅広い世代を魅了している。夫は山岳写真家の故藤田弘基氏。ネパールの山岳地帯を夫婦で訪れるなど、趣味の山歩きが執筆活動の原動力となっている。

写真 浜村菜月

高知支部を立ち上げて

青木 京子
(昭和 49 年／大卒)



理事長、常任理事と共に高知支部の皆さん(前列左から三番目が青木支部長)

「お香の会」がきっかけに

2014 年 3 月のこと。2 月に島根支部を立ち上げられた大谷香代子様から高知でお香の会をしたいとお声掛けがありました。大学国文科同期で香道部だったことは知っておりましたが、卒業後も続けておられ、香道家としてご活躍だとは知るよしもありませんでした。



私がお取り次ぎして、昨年 3 月に高知で親子香道教室が行われました。その折、大谷様より、こんな年齢になると同窓会をしてみようという気になるものだから、あなたも高知支部の立ち上げに尽力してみてはどうかと促されました。

大谷様は早速、桜会に連絡され、高知県の同窓生リストが私のもとに送られてきました。神奈川出身の私は高知に住んで 20 年、誰一人同窓生を知らずにおりましたのに、何とんでもない 80 余名もの同窓生がおられ、すぐご近所の方もあれば、同窓生と知らずに親しくしていた方もありました。

年齢を超えたつながり

リストをもとに連絡をとりましたが、亡くなられた方、他県にお住まいの方、連絡の取れない方等あるなかで 20 数名の方々が集まりを持つことに賛同して下さいました。

昨年 5 月 30 日ドキドキしながら第一回の集まりをいたしました。13 名が出席され、集まれば同窓生のよしみで年齢を超えて親しみがわき、それぞれに過ごされ

た学生時代のお話を伺うことができました。また、亡くなられた方ですが高知の私立女子中高で長く教師をされた同窓生が、多くの生徒を実践に送っておられたことを知り、卒業生の働きかけをありがたく思いました。

このとき高知支部を立ち上げ、毎年 5 月の創立記念日あたりに集まりをしようということになりました。

支部の発展を願って

今年 1 月に浦上理事長様はじめ各常任理事の皆様がおそろいで高知に来られ、高知支部を激励して下さいました。急遽 5 月の集まりを 1 月に変更し、参加者は 7 名でしたが、理事長、常任理事の皆様と 13 名で会食懇談の会をいたしました。実践桜会が支部を大事

に考え、期待されていることを改めて感じる事ができました。また、話がそれからそれへと尽きることなく、和気あいあいとした同窓生としてのつながりを実感する楽しい会となりました。これから支部をどうしていったものかと心細く思っておりましたが、大変心強く励まされました。

これからの高知支部のあり方としては、会員が連なることに意味と楽しみを持てること。母校実践にいささかでも寄与できるようにすること。この二点を考えておりますが、5 月の定時総会では、各支部長の皆様にお会いしていろいろお教えいただきたいと思っております。

(あおき きょうこ)

高知を知る キーワード

四国の太平洋側に位置する高知は、清流・四万十川や仁淀川が流れ、幕末の志士・坂本龍馬や自由民権運動の父と言われる板垣退助など多くの偉人を輩出しています。桂浜、高知城、日曜市、はりまや橋、龍河洞など、見どころも多彩。ぜひ一度、高知へお出かけください。

桂浜と坂本龍馬

南国・土佐の明るい陽射しが注ぎ、松の緑と弓状に広がる美しい海岸線が印象的な景勝地。「よさこい節」にも唄われた月の名所として知られ、東側の小高い丘の上に立つ坂本龍馬像が黒潮の海の彼方を見つめています。



高知県立牧野植物園

高知が生んだ世界的な植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰し、1958 年

高知城

高知城は、土佐藩の初代藩主・山内一豊によって創建され、日本 100 名城に選定されています。天守・御殿・追手門など 15 棟の建造物が現存し、国の重要文化財に指定されています。現在の天守は 1749 年(寛延 2 年)に再建されたもの。



(昭和 33)市内の五台山に開設されました。約 6ha の広大な園内では、野生植物など約 3000 種が季節を彩り、レストランやカフェも併設されています。

仁淀川

西日本の最高峰・石鎚山(1982m)を源流とし、土佐湾に注ぐ一級河川です。四万十川ほど知名度はありませんが、全国の一級河川の中でも水質の良さで知られています。高知出身の作家・宮尾登美子の作品に「仁淀川」があります。



いの町紙の博物館

高知市からも近い、いの町は日本三大和紙産地に数えられ、博物館では和紙の

よさこい祭り

毎年、8 月 9 日～ 12 日に高知市各所の競演場、演舞場で開催され、鳴子をもった踊り子が華やかな衣装で乱舞する四国三大祭りの一つです。前夜祭には花火も打ち上げられ、12 日は全国大会。延べ約 100 万人の人出で賑わいます。



歴史はもちろん、原料から土佐和紙ができるまでの工程を分かりやすく学ぶことができます。職人さんによる実演のほか、手漉き体験も人気です。

「神奈川支部」が発足します。

小田原支部実行会 会長

守田由紀子

(昭和 48 年／大英卒)



昨年 9 月 27 日の小田原支部実行会総会に於いて、“神奈川県内の卒業生の参加を勧めたい”との全員一致の提案が出されました。この件を理事会に諮りましたところ、今年の 1 月に承認を頂きました。つきましては、今後、「神奈川支部の立ち上げ」の準備に入ります。これを機会にこれまでの「小田原支部」の歴史を簡単に振り返りたいと思います。

「小田原支部」は、とても長い歴史を持つ支部でしたが、時代の流れにのまれて一度は消えていきました。しかし、昭和 38 年 11 月に卒業生の尽力で再開され、後に「実行会」と名付けられ親睦を深めて参りました。

小田原は下田歌子先生とは、とても縁の深い地域です。1898 年に帝国婦人協会を設立し、更に 1920 年には半官半民の「生活改善同盟会」の発起人にもなられています。また、神奈川県下の婦人会の中でも、活動的であった小田原婦人会で度々講演をされています。この頃の活動は「かながわ近代の女たち“夜明けの航跡”（神奈川県立婦人総合センター編著）」に詳しく記録されています。

また、箱根にも「実行会」の足跡が残っています。卒業生の松坂ハナさんが嫁がれた箱根の老舗旅館「松坂屋」に「実行会」が一夜の旅行をしています。また、この旅館には面白い歴史があります。第二次大戦中の事です。横浜港に寄留していたドイツの船舶が謎の爆発事故に遭遇し、多くのドイツ兵(130 名)が帰国できなくなりました。「松坂屋」は海軍省との縁が深く、日独伊三国同盟を結んでいたため、このドイツ兵を客人として招きました。しかし、終戦により米軍管理下の捕虜となり、4 年にわたり滞在することになりました。この間のドイツ兵の生活ぶりは「帰れなかったドイツ兵(新井恵美子著)」に面白く書かれています。新井恵美子さん

は「かながわ近代の女たち“夜明けの航跡”」に寄稿されていた松坂ハナさんの話に興味を持たれて、この本を出版されたそうです。

現在、私は真鶴町に住んでいます。J R 東海道線に乗って小田原駅を過ぎると、左手に相模湾が広がり始め、やがて住民 8 千人にも満たない小さな町“真鶴”に着きます。

かつてここには“真鶴岩村”があり、私たち母校の「真鶴寮」があったところです。ちなみに下田先生の故郷は、昨年旅した岐阜県の同じ岩村です。

東京を離れ、この真鶴半島に住み始めて 6 年が経ちました。母校とのつながりを感じ、小田原周辺のこの地にも母校の歴史が連なっていることに感動を覚えています。

高台にある我が家のリビングからは、真鶴港、相模湾が広がり、正面には湘南海岸、遠くに丹沢の山並みが一望できます。時の過ぎゆくままに、好きな本と向き合い、一杯のコーヒーを味わう瞬間は私の至福の時です。どうぞ、お立ち寄りください。

現在の「小田原支部実行会」の会員は 81 名です。小田原市、南足柄市、秦野市、平塚市、伊勢原市、厚木市、相模原市、海老名市、茅ヶ崎市、藤沢市、横須賀市、足柄上郡、足柄下郡、中郡、(川崎市と横浜市が各 2 名、県外が若干名)です。これからは「神奈川支部」になることで、横浜市、川崎市、座間市、綾瀬市、大和市、鎌倉市、逗子市、三浦市、愛甲郡、高座郡、三浦郡の卒業生の皆さんのご参加で「オール神奈川」の夢が達成できることになります。

「かながわ近代の女たち“夜明けの航跡”」に、私たちの“夜明けの航跡”が加わることになれば素敵ですね。(もりた ゆきこ)



生活文化科会誕生

科会長

北村はるか

(平成 20 年／生文卒)



この度生活文化学科 20 周年の節目の年に、生活文化科会を発足いたしました。これもひとえに、皆さま方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

生活文化科会の主な活動は、後輩支援や卒業生同士の交流です。

在学生には、第一希望で入学した方、そうでない方など、入学時は各々の思いがあると思いますが、卒業時には「実践女子大学で良かった」と思っていたかと思っております。そのためには卒業生の力が必要です。生活文化学科で学んだことは、社会に出て大切さに気付くことが多いように思います。会社で役職についた方、新人として働き始めた方、結婚をした方、子育て中の方等、様々な社会でご活躍の卒業生が、日々何を学び、感じているのか…在学生に伝えるひとつの場となればと思います。

また、在学生だけでなく、卒業生同士も、交流しあい、情報交換することで、一女性としてお互いに高めあえる場にも思っています。学祖下田歌子先生は、実践女子大学に「実践」と名付けました。様々な場で活躍し

ている卒業生が、お互いに刺激しあい、社会に役立てて実践することで、自立した女性として成長できる会にと思います。

今年 2 月 28 日には、生活文化学科設立 20 周年同窓会及び生活文化科会設立の会を開き、1 ～ 17 期生の約 110 名の卒業生、先生方が集まりました。久しぶりに顔を合わせ、楽しいひと時であったと共に、様々な経歴をお持ちの卒業生が、各社会でご活躍であることを知り、刺激になった良い機会でした。また生活文化学科らしく、お子連れのご参加も可能とご案内し、お子様用のプログラムやスペースも用意しました。

生活文化学科では生活を構成する様々な要素を、学問として学ぶことができます。この特徴のように、卒業生は幅広い分野でご活躍です。生活文化学科の特徴を活かし、生活文化学科の卒業生らしい生活文化科会をつくりたいと思います。

実践桜会の皆様、各科会の皆様、各支部の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(きたむら はるか)

50 年振りの科会発足生活文化学科!!



左から足立会計担当、坂本副会長、北村科会長、伊藤広報担当

早春の穏やかな日差しの中、生活文化学科の科会発足式が日野の桜ホールで 100 人を超える卒業生が参加して開かれました。子連れ大歓迎の同窓会とはさすが、生活文化学科の面目躍如ですね。会場の一部には保育スペースもあり、

2F には授乳・オムツ替え室も用意されていました。

北村はるか科会長、坂本志穂副会長、足立奈津絵会計担当、伊藤智春広報担当の 4 人が発起人です。北村科会長は「生活文化学科が発足して 20 周年の節目にあたり、目的は卒

業生の繋がりを強め、後輩たちには体験してきた事を持って少しでも相談に乗ったりアドバイス出来たら良いと考え第 1 回同窓会を企画しました。」

副会長の挨拶に続き同席された先生方のご紹介。その後集合写真を撮り、名



生活文化学科初の同窓会



「みんなでカレーを作ろう!!」のパネルシアターのデモンストレーションをして、子供と遊ぶ学生たち

誉教授の乙訓 稔先生のご発声で乾杯してパーティーが始まりました。浦上実践桜会理事長が科会設立に対しての祝辞と桜同窓会への参加を呼びかけました。和気藹々とした会の雰囲気、久しぶりに会う事の出来た卒業生の方々の笑顔が今後の桜同窓会の若き力になって活躍される事でしょう。心よりお祝い申し上げます。

記:松尾千秋

科会だより 活動方針と行事予定

詳しくは実践桜会
ホームページをご参照ください。

実践ときわ会

1月11日、祝・成人の日のお手伝いがときわ会の本年最初の仕事でした。卒業生の90%近くの方が出席、全員が振袖姿というのも壮観でした。ときわ会は、パーティーで「この会を同窓会が催したということを忘れないで」と申し上げましたが、4回目の会で、やっと「ときわ会」という呼称が多少浸透したような感じを受けました。毎年2～3月の卒業前に桜会とときわ会が話をする機会をいただいているお蔭なのではないでしょうか。

しかし、もっともっと「ときわ会」が中高生に身近になることを発信していかなければならないということを痛感致します。

ときわ会の活動に、皆様の益々のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

■総会 6月12日(日)11時～15時
於 実践桜会会館 会費2,500円
総会後、三遊亭道楽師匠による落語口演
会員外 500円
■第4回初風緑さんのストレッチ
9月に予定
■渡辺美佐子さん観劇会 秋に予定
■「ときわ会通信」4月、10月に発行
■「祝・成人の会」へ協力

(会長 古藤黎子)

実践技芸科会

会員の高齢化に伴い大きな行事は取止めとなりましたが、活動の方では各手芸教室を主として毎月定期講習会を開催しています。

会員も増え、お互いの交流の場となって楽しく過ごしています。

■定期講習会
・ハーダンガー手芸教室
第2木曜 11:00～15:00
・染色教室(かえで会)
第2火曜 11:00～15:00
・編物の会
第3金曜 12:00～15:00
・日本刺繍教室(萌黄会)
第1・3木曜 12:00～15:00
■手作り品製作(桜会バザー一用)
6月25日 11:00～15:00
■桜会バザー販売協力
■バザー当日手作り品寄贈・販売
■古切手収集
使用済古切手を集めて福祉に送っている。
●連絡先 TEL044-861-6390
(記 録 西原 操) (科会長 中岡久恵)

実践被服科会

昨年は元学長飯塚幸子先生の講演会「卒業生が語る学祖下田歌子」に多くの卒業生が集いました。被服科会の存在と意義をお知らせできたと思います。今年度は総会と下記の3事業を計画致しました。前年度の富岡製糸場見学を更に展開させて、東京農工大学科学博物館で器械製糸を実際に見せて頂きます。今年は旧被服学科、現生活環境学科のペースである日野キャンパスの

第2次整備計画が完成します。ご参加を通じて、母校と繋がり、会員のたての繋がりも楽しんで頂けたら嬉しく思います。

■第25回総会と懇親会
日時：平成28年4月17日(日)
場所：銀座三笠会館本館(銀座並木通り)
総会 11:30～12:10
懇親会 12:30～14:30
■講演会 お出かけ好きは長寿の秘訣
日時：平成28年6月13日(月)
場所：実践桜会会館
■見学会 東京農工大博物館見学とランチ
日時：平成28年9月27日(火)
場所：東小金井、東京農工大学科学博物館
ランチ：武蔵小金井「TERAKOYA」
■講習会<クリスマスリース製作>
日時：平成28年11月29日(火)
場所：実践桜会会館
■会誌発行
「歌ごろもニュースNo.20」 6月上旬
「歌ごろも第25号」 12月上旬
行事の詳細は逐次、HPに掲載いたします。
会員以外のご参加も歓迎致します。
●連絡先：TEL&FAX 03-3721-9378
(科会長 松岡久美子)

実践家政科会

世界中の不穏な動きに驚愕致しました。女性の力で平和をとり戻したいと思います。今年も家政科会をご指導、ご支援下さい。

56回家政科会の総会には、理系の卒業生として「男女共同参画社会」に協和出来る自信を身に付けるべく勉強したいと、講話をお願い致しました。

■「家政科会たより」発行 5月20日(金)
■第56回家政科会総会 講演2題
日時：5月29日(日) 10時30分より
於：ホテルニューオータニ
・生活科学部部長 城島栄一郎先生
「下田先生の家政学」
・女性労働協会理事長 鹿嶋敬先生
「男女共同参画社会」
・クラシックコンサート12時20分より
■観劇会 6月19日(日) 於：三越劇場
「深川の鈴、国定忠治」
市川月乃助・波乃久里子・伊吹吾郎
■中国料理講習会 8月21日(日)
■福祉施設作業用エプロン縫製
9月28日(水) 於：桜会会館
■バス見学会 11月16日(水)
青梅市小澤酒造・玉堂美術館
■歳末助け合い及びキリスト教海外医療協力会支援 12月
■新年会 平成29年1月25日(水) 12時
於：ハイアットリージェンシー
●連絡先：TEL&FAX 045-571-0213
(科会長 熊切富子)

実践国文科会

国文科会の28年度行事は下記のように企画いたしました。どうぞご参加ください。

昨年、大学文芸資料研究所のご紹介で国文科会も「東京都台東区立一葉記念館」の「一葉祭」に参加できるようになりました。

詳しくは「りんどう」事業部欄でお知らせいたします。

■総会 4月23日(土)13:00～
於：大学渋谷校舎内
■記念講演会(総会後)14:30～
講演：能「葵上」を楽しむ
講師：実践女子大学教授 影山輝國先生
宝生流能楽師 小倉伸二郎先生
於：総会後の会場
■神奈川近代文学館見学
6月10日(金)
「文学の森へ 神奈川の作家たち」
一夏目漱石から萩原朔太郎まで―
■会誌「りんどう」発送 7月7日
■寄道文学散歩
調布市「武者小路実篤記念館」を中心に
10月13日 京王線仙川駅界隈
■一葉祭 11月23日
於：東京都台東区立「一葉記念館」
■新年会 平成29年1月29日
■能・狂言鑑賞会 2月11日(土)
於：国立能楽堂
演目：能<葵上> 狂言<呂連>
＊なお、詳細については「りんどう」又はホームページをご覧ください。
●連絡：実践桜会 実践国文科会
(科会長 若松幸子)

実践英文科会

1月24日(日)に開催しました新年会には、新しい顔がまた増えました。

この新しい会員の方々にもさらに輪を広げていただけるよう、今年度も講演会・勉強会など会の活動に力を注いでいきたいと思っています。

今年は、英文科会独自の秋の見学会を企画するつもりです。

是非ご参加ください。
■総会：6月12日(日)
■講演会
日時：6月12日(日)の総会後
13:00～15:00
講師：稲垣伸一先生
テーマ：未定
会場：実践桜会会館 1F ホール
■「英文科会だより」
2016年発行9月下旬
■見学会
日時：10月下旬～11月上旬
■新年会
日時：平成29年1月
■常設勉強会
於：実践桜会会館
輪読会A:第2・第4金曜日10:30～12:30
輪読会B:第1・第3金曜日10:30～12:30
●連絡先：TEL&FAX 045-862-3744
(科会長 山内典子)

不二山喜三子先生を偲ぶ

藤田陽子
(昭和35年/大國卒)



茶室にて筆者

不二山先生は昨年11月5日に96才でお亡くなりになりました。

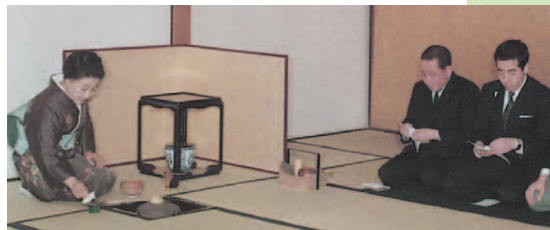
私は昭和25年に2割が焼け残った中学校に入学しました。既に女子教育の一環として表千家流の茶道部はあり、高校生になった頃に不二山先生が指導にみえておられました。大学の茶道研究会では茶道の歴史、表千家の事など作法に限らず内容は深くなりました。大変怖い先生で圧倒される雰囲気緊張しましたが、正統派の知識をもち、解りやすくはっきりとした物言い、モダンなお姿、若かった私達は魅了されて先生の茶道を吸収しました。「間の悪い人は駄目、今と言うタイミングの良い人になる為の稽古で

しょ」私達がまごまごしていると「そういうのを聞ぬけって言うのよ」とガンとやられました。「客は主を思い、主は客を思う…思いやる心を、重きは軽ろく軽ろきは重く心がけ所作の美しさを身につける」等々…。最も印象に残るのは「食べる事が好きなら懷石料理の事、布が好きなら裂の事、文字が好きなら掛け軸の事、陶器や塗物の事、大工しごとの事、庭の事…、茶道は生活全般に係るので必ず得意の分野に出合えるからそこがはじまり」という教えでした。大学での茶道研究会は正にそのように活動し、保守的な女子大学で他大学との交流、学外での茶会など、先生の指導の許で実現でき

ました。70年以上の歴史ある研究会を充実させて現在に引継がれている功績は大きな事と改めて思います。

茶道の教えは時代が変化しようとも今の若い人達を「強くて弱くて、明確で曖昧で、礼儀正しくて適当で…」日本人が失ってはならない不思議で大切なものを育ててくれると信じます。

(ふじた ようこ)



ありし日の不二山先生 不審庵茶会にて

実践キャリアネット

実践キャリアネットは「仕事」「働く」をキーワードとした同窓生のネットワークです。世代・学部を超えた仲間との異業種交流、キャリアアップの為のセミナー開催、在校生支援、卒業生就職・転職相談などの活動を行っています。セミナー、講演会は「仕事」経験の有る方は勿論、無い方でも大歓迎です。入会をお待ちしております。

【活動レポート】

●総会・講演会

6月20日(土)桜会会館ホール

総会後の講演会は学園卒業生で女優の渡辺美佐子様に「仕事と私」と題し、お話を伺いました。実践時代の思い出と共に渡辺美佐子様のエッセイ「りんごのほっぺ」を朗読いただき思い出深い総会・講演会となりました。

●桜会主催「学祖下田歌子の故郷岩村の旅」
11月14(土)、15日(日)

桜会主催の「岩村の旅」に会員5名が参加いたしました。参加総数100名の



大規模な旅行でした。

多くの同窓生と下田先生のお墓参りが出来ました。また、岩村の自然と人々の温かさを満喫いたしました。



●第1回セミナー開催

11月28日(土)大学渋谷校舎10階スカイラウンジ



楽しいおしゃべりと素敵なシャンソンで楽しいひと時を過ごしました。国文科卒業後にパリに単身渡り、ご自分の道を切り開いていらしたバイタリティ溢れる貝



山幸子様のお話は聞いている者を引き込み、聞いている私どもを元気にしてくれる講演会でした。

●第2回セミナー開催

2月20日(土)桜会会館ホール

「イタリア留学が私を変えた」と題し、同窓生で管理栄養士の山内千夏様からお話を伺いました。山内千夏様の卒業後、製菓メーカーで商品企画に携わった後に留学を決めた経緯、留学中の想い出話と共に、料理に対する情熱もお話してくださいました。



●予定

6月18日(土)午後 総会後に講演会を行います。

実践キャリアネットが 発足 15 年を迎えます

実践キャリアネット事務局長
野中裕子
(昭和 51 年／大英卒)



実践キャリアネットは、実践桜会理事長直轄の組織で、2003 年に発足しました。2018 年度には 15 年目を迎えます。「仕事」「働く」をキーワードとし、世代・学部を超えた仲間とキャリアアップの為の異業種交流、セミナー開催、在校生支援、卒業生のための仕事についての何でも相談など、活動を行っている同窓生のネットワークです。

発案は、当時の桜会理事長の若松さんです。長い間、働く実践卒業生の会の創設を温め、発足準備事務局の市川さんと共に 2001 年から準備に入りました。会の趣旨、卒業生の情報をどのように集めるのかなどを検討後、発起人会を作る具体的な準備を開始しました。発起人を人選、ご賛同を得て参加いただくこと、これが大変だったと伺いました。

2003 年 2 月に発起人会を開催し、2003 年 5 月に桜会総会で「実践キャリアネット設立」が承認され、その後会則を作る準備などを経て、構想から 3 年後、2004 年 2 月に「第 1 回のキャリアネット総会」を開くことができました。このような諸先輩方の多くのご苦労の末、実践キャリアネットは誕生いたしました。

私どもは現在、女性のための情報をいろいろ模索して、いきいきと働き・楽しく・キャリアと活力 UP に繋げていただけるような「セミナー」と「会員交流会」を年に数回開催し、また毎月第 4 土曜日の「卒業生のための仕事についての何でも相談会」では、就労に詳しい資格者の相談員が世代を問わず職場、転職、再就職など、あなたの悩みを親身になり一緒に考え支援をしております。「在校生支援」活動は、2 月に渋谷校舎、日野校舎にて



講師と運営委員の面々

開催されます実践女子大学キャリアセンター主催の「卒業生と在校生との交流会～OG 懇談会～」に実践キャリアネットとして会員が参加し、在校生の就職や仕事についての相談に答えております。

実践女子大学キャリアセンターでは、卒業生と在学生との交流を活性化させるべく「実践 OG サポーター」の構築準備を始められました。私ども実践キャリアネットも、その趣旨に賛同し協力する所存でございます。



セミナーの様子(2016 年 2 月)

実践キャリアネットは仕事をしている方に限らず、仕事に興味や関心がある方、在校生の支援にご協力いただける方、実践の卒業生はどなたでも入会できます。

今年度は、実践キャリアネット会員の拡大を目標にしておりますので、卒業 1 年目の方から、シニア世代まで年代を問わず大歓迎です。

是非、皆様のご入会をお待ちしております！

＊入会申し込みは以下からお願いします。

・実践桜会ホームページ：<http://www.j-sakura.org>

・実践桜会電話：03-3407-7459

(のなか ゆうこ)

〔野中裕子プロフィール〕

実践女子学園中学・高校・大学英文科を卒業後、株式会社東急ホテルチェーン(現 株式会社東急ホテルズ)本社に入社し現在に至る。2003 年実践キャリアネットの活動に参加し、2014 年から実践キャリアネット事務局長

テニスクラブ 「まるみの会」

まるみの会 60 年の絆

その名の由来は丸く柔らかいソフトテニスの球からきたものです。「まるみの会」は昭和 32 年から現在まで 60 年近い歴史を持つ、中高軟式テニス部(現ソフトテニス部)の卒業生と顧問の先生方の集まりです。この会の発起人であり、その元となる軟式テニス部を立ち上げ、中心となってご指導をされた阿原八郎先生(元実践女子学園中学校・高等学校校長)にお話を伺いました。

軟式テニス部の誕生とまるみの会のはじまり

昭和 22 年に先生が理科の教員として奉職した当時、まだ軟式テニス部はありませんでした。そこで希望者を募り、2 年後の昭和 24 年に 10 名ほどの生徒を集めて軟式テニス部はスタートしました。当時中学 3 年生だった渡辺美佐子さんもメンバーの一人でした。

まずは“みんなで楽しくテニスをする”ことを目指して、基本技術を学ぶ練習を行いました。当時校庭はアスファルトで、ずっと土のコートに憧れていたそうです。

その後部員が急増し、数学の谷先生・関森先生、社会科の飯塚先生・小川先生が顧問に加わりました。人数制限のため体育館の壁に 10 連続で打てたら合格という、関森先生発案の入部試験を実施するほどの人気でした。阿原先生は顧問として、部員同士の信頼と思いやりの大



憧れの阿原先生・谷先生と



練習に打ち込む生徒



先生の米寿を祝うため、80 名もの OG が集合

切さを第一に指導に当たってこられ、そのころは現在の佐川先生まで脈々と引き継がれ、ソフトテニス部は今や関東大会に出場するほどの強豪校となっています。

クラブ誕生から 8 年後、卒業後も繋がりが続くようにと先生は OG 会を提案。学

校を会場とし、決めた時間内であれば出入り自由、用事のある人は途中で帰っても良い。そんな縛りのない会で、午前はテニスを楽しみ午後は昔話に花を咲かせる。顧問・生徒という立場や卒業年は違っても、“軟庭”でつながった心を許す仲間達の交流の場となりました。まるみの会の今後について、“自然の流れに任す”と阿原先生はお考えです。



挨拶をする阿原八郎先生

まるみの会の今、そしてこれから

現在約 200 名の会員を持つまるみの会では、学年責任者を中心とした横のネットワークと先輩後輩の縦の連絡網を中心にして積極的に活動を続けています。卒業年毎に交代で幹事を務め、1～2 年おきに母校の校舎を借りて交流会を開いています。その際、連絡先のデータ更新や次回幹事の選出なども行っています。

昨年 6 月には「阿原先生の米寿の会」を開き、お祝いのために 80 名の方が桜会会館に集まりました。遠方からも数多くの OG がいらっしゃったということです。

今回、卒業生の一人として「まるみの会」取材して、強く印象に残ったことが二つあります。一つは緻密なシステムを駆使し、絆を絶やさないように努力されていること。そしてもう一つは、「阿原先生や顧問の先生方が本当に熱心に面倒を見て下さった」、「必死にボールを追いかけた日々、みんなで一緒に頑張った思い出が忘れられない」という会員の皆さんの言葉です。

この絆がある限り「まるみの会」はこれからも続いていくのだと確信しました。(記：青山マキ子)

本部だより

学祖祭

10月8日(学祖のご命日)、護国寺にて墓参を終えた学園関係者と共に、実践桜会会館にお祀りした下田歌子先生の祭壇に、一同参拝を致しました。本年も実香会によります、お供え香の儀が執り行われ、厳かな雰囲気の中、多数の学園関係者の方々、また学生の皆様にもご参拝いただき、近代日本女子教育者の先駆者としての学祖の偉業に思いを新たにいたしました。今後とも多くの会員のみなさまが学祖のお祀りにご参加下さいますことを願っております。また、午後よりご宗家三條西堯水氏をお迎えして、実香会によります余香として「常磐香」を開催し、優雅なひと時を満喫いたしました。

母校教育助成事業

平成27年度定時総会(5月17日)に実践桜会より学園助成金を井原学園理事長に贈呈しました。大学「常磐祭」・10月18日(渋谷キャンパス) 11月8日(日野キャンパス)において、実行委員会に協賛金贈呈及び桜会賞(研究部門・芸術部門)を授与しました。

実践桜会奨学基金事業

学園高校生1名に給付しました。公募により実践女子大学生1名に給付いたしました。

実践桜会国際交流基金事業

留学生2名(中国1名、韓国1名)に奨学金を給付しました。10月と3月に実践桜会との交流会を開催しました。

社会活動助成事業

会員以外の参加者も視野に入れた諸活動を行った5科会、16支部、計21団体に社会活動助成金として上限5万円を助成しました。

法律相談

月1回、第2水曜日(11時～16時)に

行っています。秋田瑞枝弁護士が相談を担当します。事前に電話で予約してください。秘密厳守をお約束いたします。詳細は実践桜会会館にお問い合わせください。

実践桜会バザー開催

平成27年10月24日(土)25日(日)実践女子学園中高ギャラリーアリーナ会場にて、中高ときわ祭協賛バザーを開催いたしました。会員の方々、各科会、全国各支部からの特産品、手作り品、雑貨等多数ご寄贈頂きました。母校記念品も販売いたしました。皆様のご支援ご協力に厚く御礼を申し上げます。

●バザー寄贈品ご提供のお願い

中高ときわ祭協賛バザー
開催日：平成28年10月29日(土)30日(日)
＊寄贈品のご提供(受付期間4月～10月17日)をお願いいたします。
＊衣類は新品に限らせて頂きます。
＊バザー当日のお手伝いを募集します(受付期間4月～9月末)。桜会事務局か桜会文化部へご連絡ください。

初春歌舞伎観劇会

平成28年1月10日(日)国立劇場にて14年振りの再演、河竹黙阿弥作「小春稲沖津白浪一子狐礼三」(尾上菊五郎監修)を323名の会員と共に観劇いたしました。お正月らしい華やかな趣向、迫力ある主役の立ち廻り、引

TOPICS

平成28年3月5日(土)、第2回奨学生交流会が実践桜会会館で行われました。西向常任理事らによる着付けで、奨学生の美しくあでやかな振袖姿が披露されました。参加者から将来について問われ、目を輝かせて語る姿がとても印象的でした。スピーチでは、それぞれの研究成果等を報告。今後の活躍が期待されます。



左から菱田ハージアラシェイクさん、陳陽淑さん、呉さん



桜会との交流はこれからも続けたいと、皆さん

き立たせる捕り手の動き技に観客も大喜びで拍手喝采でした。今年も多数のご参加を頂き、誠にありがとうございました。

会費納入のお願い(年間費2,000円)

一般社団法人教育文化振興実践桜会の運営・活動は皆様の会費によって支えられています。会費納入のかたは、振込用紙にてお近くのコンビニ、ゆうちょ銀行および実践桜会本部窓口でご納入願います。また、下記の銀行口座を使い、銀行振り込みもご利用ください。

みずほ銀行渋谷中央支店(162)
口座番号普通1189795
一般社団法人教育文化振興実践桜会

なお、振込用紙がない場合は、実践桜会会館までご連絡ください。
TEL: 03-3407-7459 FAX: 03-3499-0835
＊いずれの場合も会員番号、卒年学科のご記入をお願い致します。

クラス会 50 回を むかえて思うこと

みなな会幹事 大屋恕子
(昭和37年／大食卒)

名称「みなな会」は昭和37年卒業ということで、塩川ふみ先生が命名をして下さいました。

はじめは実践女子大学在職者の方たちが音頭をとって下さり、その後は旧桜同窓会館3階和室で15回まで行い、子育て中は子供同伴の方が多く、皆で保育役をしたことも楽しい思い出です。

毎回クラス会閉会の頃に次の幹事と日取りを決めますが、皆さん自発的に受けて下さり、その方たちに会場、会費もすべておまかせいたしました。「みなな会規約」も出席者で決め、連絡費、諸費用代として運営費の名

目で年500円徴収しやってきました。毎年クラス会をやっていますし、数年毎に担当の幹事が名簿を作成して下さいますので、クラスの人たちの住所、近況も把握できていることも素晴らしいことだと思っております。

23回目のクラス会は日野校舎が新設開校になりましたので日野で行い、衛藤君代先生に校内を案内していただきました。25回記念は箱根仙石原仙鶴荘で1泊。30回記念は片瀬江の島で1泊。60才還暦のお祝いは京都方面の方が幹事を受けて下さり、京都南禅寺の菊水で1泊し、京都を自由散策しました。40回記念は北海道在住の方が計画して下さい、3泊4日貸切りバスで札幌、定山溪、富良野、旭山動物園など廻りました。49回はクラス会後、新設となった渋谷校舎と桜会会館を見学しました。50回記



念は“なつかしい渋谷で!!”ということで、学校近辺でいたしました。

卒業後53年、みなな会は50年。この内の3回は卒業した年、塩川ふみ先生がお亡くなりになった年、阪神大震災の年は、幹事も開催地も関西でしたため中止になりました。こんなにもクラス会が続いたのも、クラスの皆さんの学校愛、友情また自身の健康、家族の愛情と理解にも恵まれた賜と思っております。

みなな会に感謝!! 私たち一人一人が置かれた環境に感謝!!
(おおや よしこ)

常磐寮同窓会を しましょう

持田けい子(旧姓 高谷)
(昭和46年／大食卒)

昭和42年4月、青森から上京して、実践女子学園短期大学生活科に入学しました。学校敷地内にある常磐寮からの通学でした。当時、常磐寮は、東寮と西寮の和室旧寮と7階建ての新寮の3棟でした。1室4名で約400名の寮生活の学生がいました。

学寮があるということで、両親はもとより自分自身、都会生活に何の不安もなく、新しい生活に希望、期待、憧れを胸いっぱいにしての第一歩でした。最初の1年目は、大学被服科4年、大学被服科2年、短大生活科2年の先輩

方との両側に2段ベッドと机が備えつけられた3階での生活でした。朝食、夕食はもとより昼食まで寮に帰ってできお箸を持参するだけで、片付けする必要もなく、地下には大浴場、洗濯室、アイロン室設備があり、セントラルヒーティングでした。生活用品を販売する売店もあったので東京に慣れるまでしばらくは外出せずとも生活できました。玄関に入ってすぐの事務室には、寮長の塩川教授に代わり、生活の面倒をみてくださった寮監の守屋先生、飯島先生がおり、8時すぎから安くなる郷里からの長距離電話を取り次いでくれ、嬉しい書留受領の御用までしてくれました。守屋先生は女性で初めての小学校校長と噂がありましたが、大田区に住んでいた夫の小学校の担任で、後年の、校長職に就いたということで奇縁を感じました。

結局、大学食物科に編入学したので常磐寮で4年間生活しました。1階、7階と移り、渋谷駅7分、高級住宅街、眺望よし、設備完備の学寮でした。

思い出しても恵まれた、夢溢れた時代でした。全国から集まった家庭環境も全部、学科も異なる寮の友人達でしたが、実践で学ぶという共通項でつながり、毎日毎夜、尽きないお喋りに興じた日々でした。現在でも交流があり、懐かしむのは寮のおかげです。私達の常磐寮は、今はありません。あの場所には、大学建物があります。あの時代の青春の絆を、復活させませんか？

同窓会総会は、毎年、渋谷セルリアンホテルで開催されます。その前後にホテルに集い、寮生活の懐かしい思い出を語り、あの時代にタイムトリップしたいものです。